

補助事業の実績

I 目的

平成 28 年度から 3 年間実施した「わか杉っ子！育ちと学び支援事業」の成果を踏まえて、教育・保育アドバイザーを配置する市町村を拡充し、県と市町村が連携しながら、就学前施設への巡回指導や地域での研修等を実施することで、教育・保育の推進体制の充実・強化を図る。

(本県事業名：わか杉っ子！育ちと学びステップアップ事業)

II 方法

「県（幼児教育センター）の取組」「県と市町村との連携による取組」「市町村の取組」を実施

III 実施内容

県（幼児教育センター）の取組

1 教職員の専門性の向上

(1) 「保育士等が習得すべき資質・能力ガイドライン」の作成

① 「ワーキング会議」委員による資質・能力ガイドラインの内容の検討

前年度素案として作成した「秋田県保育者等育成指標」をもとに、保育現場関係者に委員を委嘱し、就学前教育・保育の実践に資する資質・能力を体系的・段階的に育成する指標となるよう、2 度のワーキング会議を経て内容及び活用について様々な意見をいただき、見直しを図った。

ア) 目的

県内就学前・教育保育施設等や県及び市町村就学前教育・保育行政が共通の方向性をもって教職員の人材育成を図るための保育士等がキャリアステージに応じて習得すべき資質・能力のガイドラインを作成・周知する。

イ) 内容

- a. 「ワーキング会議」開催。キャリアステージに応じた保育者が習得すべき資質・能力の明確化、それに基づく人材育成の内容・方法の検討及びガイドラインの原案作成
- b. 「就学前教育推進協議会」で有識者・委員・自治体関係者への提案
- c. 年次別研修での活用 [新規採用者研修、保育実践力習得研修(3 年目)、5 年経験者研修、中堅教諭等資質向上研修(10 年経過者)]

ウ) 「ワーキング会議」委員及び事務局の構成

a. 就学前・教育保育関係者(6 名)

大潟村立大潟こども園保育教諭 (秋田県国公立幼稚園・認定こども園協会)
 美郷町立仙南すこやか園保育教諭 (秋田県国公立幼稚園・認定こども園協会)
 土屋幼稚園・保育園主幹教諭 (秋田県私立幼稚園・認定こども園連合会)
 湊城幼稚園・ていじょう保育園副園長 (秋田県私立幼稚園・認定こども園連合会)
 男鹿市立玉ノ池園長補佐 (秋田県保育協議会)
 鶴川保育園主任 (秋田県保育協議会)

b. 事務局及びガイドライン作成に係る関係者(11 名)

幼保推進課指導班指導主事、幼保指導員、県教育・保育アドバイザー
 北・南教育事務所総務・幼保推進班指導主事

エ) 内容の詳細

- a. 「秋田県保育者等育成指標」「年次別自己到達目標評価表」の検討、修正
「就学前施設保育者等 資質・能力ガイドライン」作成スケジュール

令和元年度（事業1年目）の取組	
①「秋田県就学前施設保育者等育成指標（試作版）」の作成 ・内容再検討、次年度ワーキング会議を経て、就学前教育推進協議会で提案	
②「自己到達目標評価表」（第1稿）の作成及び年次別研修会で活用。受講者アンケートの実施。内容・表記の一部修正。	
日 程	内 容
4月16日(火)	全県指導主事会議：ガイドラインの構想や作成過程の検討
4月～6月	第1次案作成・検討（課内） 第1次案活用方法・様式・標記等検討（幼保推進課・北・南教育事務所） 年次別研修で活用（新規採用者研修、保育実践習得研修、5年経験者研修、中堅教諭等資質向上研修）受講者アンケート実施
6月～7月	外部検討委員へ送付、意見収集・修正
8月23日(金)	幼保推進課・教育事務所連絡会で内容確認
8月29日(木)	「就学前教育推進協議会」で提示・協議
9月～	育成指標の内容再検討 課内で「秋田県保育者育成指標」第2次案に向け検討
令和2年度（事業2年目）の取組	
①ワーキング会議を開催、「秋田県保育者等育成指標」原案の完成	
②「自己到達目標評価表」の活用	
日 程	内 容
6月～12月	「秋田県保育者等育成指標」第2次原案作成（幼保推進課・教育事務所） 「年次別到達目標評価表」年次別研修で活用 （新規採用者研修、保育実践力習得研修、5年経験者研修、中堅教諭等資質向上研修）
6月30日(火)	第1回ワーキング会議 参加者：外部検討委員、幼保推進課・北・南教育事務所指導主事等 内容：「秋田県保育者育成指標」第2次原案検討・協議
7月～8月	「秋田県保育者等育成指標」第3次原案作成（幼保推進課・北・南教育事務所）
9月18日(金)	第2回ワーキング会議 参加者：外部検討委員、幼保推進課・北・南教育事務所指導主事等 内容：「秋田県保育者育成指標」第3次原案検討・協議
10月～11月	「秋田県保育者等育成指標」最終原案作成（幼保推進課・北・南教育事務所）
11月27日(金)	「就学前教育推進協議会」で最終原案提示・説明・協議
12月	最終案修正、外部検討委員に送付 「秋田県保育者等育成指標」最終確認（全県指導主事会議）
令和3年度（事業3年目）の取組予定	
①「秋田県保育者等育成指標」の完成	
②「自己到達目標評価表」の活用	
5月～6月	第1回「秋田県教職キャリア協議会」で「秋田県保育者等育成指標」素案提示・協議
10月	「秋田県保育者等育成指標」最終案検討（幼保推進課・北・南教育事務所）
11月	外部検討委員へ送付、最終意見集約
12月	全県指導主事等連絡協議会で最終案検討（幼保推進課・北・南教育事務所）
1月	第2回「秋田県教職キャリア協議会」で「秋田県保育者等育成指標」最終案提示・協議
2月	「秋田県保育者等育成指標」最終案確認（幼保推進課・北・南教育事務所）
3月	完成版（印刷）・全就学前教育・保育施設へ発送・ホームページ掲載

b. 令和3年度に向けて

今年度2度のワーキング会議を経て、委員はじめ現場関係者の意見等を踏まえ秋田県保育者育成指標及びキャリア別自己到達目標評価表の改善を図ることができた。より現場で活用しやすく、計画的に人材育成を図ることや、保育者自身の目標指標として活用いただける内容とすることができた。令和3年度は、審議会を経た後、年度末に県内全就学前施設及び全保育者向けに発送予定。

(2) 保育者の専門性向上を図る研修機会の実施

園内研修リーダーの育成に係る研修機会、小学校教育との円滑な接続のための合同研修の機会の提供は、本県の課題解決のため重要な研修の機会であり、昨年度に引き続き実施を予定していた。しかし、新型コロナウイルス感染症拡大防止のため、合同研修会は中止、園内研修リーダー養成講座は密を避けるため受講者を減らし、一部オンラインでの研修を実施した。

①「園内研修リーダー養成講座」の開催（園内研修を推進する研修リーダーの育成）

基礎編、応用編共に2回ずつ実施している。新型コロナウイルス感染症拡大防止のため、9月下旬の1回目は、受講者は会場に集合し、リモートによる研修会を実施した。これまで重要視してきた演習や対面での協議が例年通りとはいかなかただったが、一方的な講義とならないよう、受講者の実践や考えをドロップボックスを使い講師に届け、双方向での研修が実施できるようにした。ただし、これまで実施してきた研修手法を中心に学び、研修内容の園内での活用を課題とすることや、マネジメントを中心に学び、マネジメントに関わる評価・改善と他園の研修への参加を課題とすることなど、予定していたより実践的な研修を実施することがかなわなかった。2回目は、10月下旬に講師に来県していただき、対面での研修が実現したが、ソーシャルディスタンスを保つ制限があるため、1回目同様演習や協議等を十分実施するまでには至らなかった。

ア) 目的

【基礎編】幼稚園・保育所・認定こども園等において、園内研修を推進する立場の保育者に対し、基本的な研修の進め方や研修手法に関する研修の機会を提供し、その専門性を高める。

【応用編】幼稚園・保育所・認定こども園等において園内研修を推進する保育者に対し、組織的・継続的・効果的な取組方法等、研修リーダーとしての役割に関する研修の機会を提供し、その資質の向上を図る。

イ) 参加対象

県内公立及び私立幼稚園・保育所・認定こども園等の研修リーダー（次世代の研修リーダーを含む）、市教育・保育アドバイザー等

ウ) 期日、場所、参加者数

	基礎編	応用編
期 日	令和2年 9月29日（火） 令和2年10月30日（金）	令和2年 9月28日（月） 令和2年10月29日（木）
場 所	秋田県生涯学習センター（秋田市）	秋田県総合教育センター（潟上市）
参加者 総 計	就学前施設等の研修リーダー （次世代研修リーダー）	園内研修リーダー養成講座（基礎編） を受講終了している就学前施設等の研 修リーダー
	基礎編 63名（前年比-100）	応用編 65名（前年比-9）
参 考	163名（R1）、203名（H30）、145名（H29）、 195名（H28）	74名（R1）、111名（H30）、93名（H29）

エ)内容・受講者アンケート評価

講座名	主な内容	A	B	C	D
基礎編	内容について ◇講義・演習 ・園内研修計画の作成と研修の進め方 ・写真を使った研修の進め方（準備～事例検討） ・写真を使った研修の進め方Ⅱ（自園の事例を題材に） ・リーダーシップとファシリテーション 講師 群馬大学 教授 音山 若穂 氏	38	20	5	0
応用編	内容について ◇講義・講話・演習・情報交換 ・組織的・計画的・継続的な研修づくりに向けて ・研修のまとめ方（記録の残し方、研究紀要の書き方） ・人材育成（職員の資質向上、職員への助言・指導） ・働きやすい環境づくり 講師 群馬大学 教授 音山 若穂 氏	49	15	1	0

(※A～Dは、受講者アンケート (%) A満足 Bやや満足 Cやや不満 D不満)

オ) 応用編実践課題「他園の研修リーダーに学ぶ」の取組の中止

近隣市町村もしくは近隣園等、他園の研修に参加する研修課題に昨年度まで継続実施し、設置形態や公・私立、市町村の垣根を越えた地域で学び合う好評な実践課題であったが、今年度は実施を断念した。他園の研修に対する関心や参加率も非常に高い実践課題であることから、次年度以降再開予定である。

カ) 受講者の声 [(幼) 幼稚園、(保) 保育所、(認) 認定こども園]

【基礎編】

(認) 写真を見て読み取るための時間、書き込む時間などあつという間という感じがした。短い時間でもパッと書くことに時間をかけすぎず、考えを出し合う事が大切なのだと気付いた。また、演習での使用した「そうち」のエピソードには感動した。そこで実施した次につながる研修での話し合いがすばらしく、自園でもそうした手応えのある園内研修を目指したい。



ドキュメンテーションを使った演習
(秋田県生涯学習センター)

(保) 自園の事例を題材に、グループの方から意見をいただくことができ、めあてに対してのキーワードと今後に向けてというところまで達成することができた。有効な写真の活用や研修の時短方法、他者の意見に触れることでの視野の広がりなどすぐに実行できる学びが多かった。研修は楽しいものという意識を園内で醸成していきたい。

【応用編】

(認) 自園の研修は年度末の研修のまとめなどにいたっていなかった。前年度の振り返りで次年度の課題を見つけることも弱かった。応用編で学んだことを持ち帰り、現在は目の前の子どもの姿から研修テーマを決め、エピソード記録も活用し保育を見つめ直す実践につながっている。園内研修において、自分の保育を振り返りつつ、様々な保育者の見方、捉え方に気付ける園内研修になってきている。本日の講義では、すぐに実践に活かせることも多かった。年度末に向け、しっかり記録を残し、全職員で共通理解を図りながら本年度の紀要作成に着手する。

(幼)日案と共に担任が事前に見てほしいポイント・視点を引き出したり、気づきを口頭で伝え、意識付けすること、公開保育を活用した研修の進め方や手立ては、自身や自園の今後の取組上、大きな学びとなった。学年、年齢を問わず同じ目線の“自分事”としての話合いや自分の保育を言語化できるような研修の工夫により、今後の園全体の保育の質の向上へとつなげていきたい。今できることを取り入れながら、自園の温かい雰囲気づくりを強みに、認め合える場づくりをさらに進めていきたい。



オンラインで演習
(秋田県生涯学習センター)

(保)若手や中堅、管理職など、チームや仲間としての関わりにおいて、タイプ別の接し方や方法など、一人ひとりにあつた具体を知ることができた。子どもや保護者への接し方を意識しているように、同僚に対しても相手にあつた接し方が重要であることを学んだ。研修の本体に組み込むための5分間コーチングは、今年度のテーマを意識したり、研修を楽しく進めるための有効な手立てだと感じた。今後は、他園の実践を学ぶ機会にも積極的に参加しながら、効果的な自園の研修方法や手立てをさらに探していきたい。

②「就学前・小学校等地区別合同研修会」の開催（小学校教育への円滑な接続）※中止

幼児教育・保育と小学校教育との円滑な接続のため、育ちや学びをつなぐ幼小接続に関する相互理解を図るために実施しており、関心の高まりと共に内容の充実が求められているが、例年県内3地区各会場に150名前後が集まり、小グループでの協議を実施してきたが、今年度は新型コロナウイルス感染症拡大防止のため、残念ながら3会場とも中止した。

ア) 目的

地域における就学前及び小学校等の教育における円滑な接続の在り方について、幼稚園・保育所・認定こども園等と小学校等の教職員間の相互理解を深めるとともに、教職員の資質の向上を図る。

イ) 参加対象

県内公立及び私立幼稚園・保育所・認定こども園等の職員、小学校職員、市町村教育・保育アドバイザー等

ウ) 本県の幼小連携・接続の実践内容

「令和2年度及び令和元年度秋田県における就学前教育・保育に関するアンケート調査結果」

No.	質問項目	令和2年度	令和元年度	全年比
1	子ども同士の交流	64%	77%	-13%
2	保育者・教員間の情報交換	83%	81%	+2%
3	接続を意識したカリキュラムの編成	84%	76%	+8%
4	保育者による小学校の授業参観	69%	74%	-5%
5	保育者による小学校の授業参加	22%	19%	+3%
6	小学校教員による保育参観	49%	52%	-3%
7	小学校教員による保育参加	18%	17%	+1%

各地域や学校区で、コロナの影響により一部の地域で交流計画の中止や見直しによる延期などがあつた。全体として子ども同士の交流が大きく減少しているが、反面接続を意識したカリキュラムの編成への取組が向上するなど、コロナ禍において進展する項目も見られた。

安全に配慮しつつ、交流内容の見直し、時間差での参観方法にするなど、実態にあつた工夫が見られた。

2 教育・保育推進体制の拡充

(1) 「就学前教育推進協議会」の設置・開催

①目的

「わか杉っ子！育ちと学びステップアップ事業」における施策の実施状況等を基に、市町村教育・保育アドバイザーの配置による地域で学び合う体制づくりや、県と市町村の連携体制の在り方等について協議を行い、県全域における教育・保育推進体制の充実・強化に資する。

②内容

- ア) 就学前教育・保育の推進体制充実・強化について
- イ) 保育者が習得すべき資質・能力ガイドラインについて

③「就学前教育推進協議会」委員及び事務局の構成

- a. 学識経験者（1名）
秋田大学教育文化学部教授（座長）
- b. 就学前教育・保育団体関係者（2名）
美郷町立仙南すこやか園長（秋田県国公立幼稚園・こども園協会会長）
認定こども園さかき幼稚園長（秋田県私立幼稚園・認定こども園連合会長）
子吉保育園長（秋田県保育協議会長）※欠席
- c. 就学前教育・保育施設及び小学校関係者（7名）
潟上市立戸こども園長（秋田県国公立幼稚園・認定こども園協会）
仙北市立角館こども園長（秋田県国公立幼稚園・認定こども園協会）
将軍野幼稚園長（秋田県私立幼稚園・認定こども園連合会）
湊城幼稚園・ていじょう保育園副園長（秋田県私立幼稚園・認定こども園連合会）
大館市立たしろ保育園施設長（秋田県保育協議会）
はなだて保育園施設長（秋田県保育協議会）
上北手小学校長（秋田県校長会）
- d. 自治体関係者（15市町村30名）
・「わか杉っ子！育ちと学びステップアップ事業」実施市行政関係者及び教育・保育アドバイザー（教育委員会、福祉部局）
・県内市町村行政関係者（教育委員会・福祉部局）
- e. 事務局関係者（計14名）
幼保推進課指導班指導主事、幼保指導員、県教育・保育アドバイザー
北・中央・南教育事務所総務・幼保推進班指導主事

④期日・場所

期日・場所	令和2年11月27日（金） 秋田県生涯学習センター（秋田市）
主な内容	<p>【報告等】 令和元年度「わか杉っ子！育ちと学びステップアップ事業」実績について 令和2年度「わか杉っ子！育ちと学びステップアップ事業」県の取組及び実施市の特徴的な取組について</p> <p>【協議】 秋田県における就学前教育・保育の推進体制充実・強化について (1)教育・保育の質の向上に向けた身近な地域で学び合う体制づくり ・市町村や公・私立、設置形態の垣根を越え学び合う体制づくりについて ・市教育・保育アドバイザーの活用について (2)・小学校教育との円滑な接続を支える行政担当課の連携等について ・組織的・計画的な地域における幼小連携の体制づくりについて</p> <p>【提案・質疑】保育者が習得すべき資質・能力ガイドラインについて</p>

⑤就学前教育推進協議会参加者からの主な意見（一部抜粋）

（幼）幼稚園関係者（保）保育所関係者（認）認定こども園関係者
（行）市町村就学前施設担当者（小）小学校関係者（生）生活科担当指導主事
（座）座長（団体長）就学前教育・保育団体長

- a. 協議①：「教育・保育の質の向上に向けた身近な地域で学び合う体制づくり」について
・市町村や公・私立、設置形態の垣根を越え学び合う体制づくりについて
・市教育・保育アドバイザーの活用について



様々な立場の方に意見をいただいた就学前教育推進協議会
（秋田県生涯学習センター）

（保）昨年度までとの違いも含め、近隣園で学ぶ機会を得てのメリット等、大仙市ではアドバイザーが配置となり、設置主体が異なる園や小学校と学び合う機会を持つことが出来た。

（保）学び合いの必要性・重要性を理解していたものの園だけでは難しいと感じていた。行政のバックアップにより実現でき、ADのパイプにより、法人の枠を超えた研修ができた。

（保）ADから助言をいただき、男性保育士対象研修会を開催でき、今後の励みになった。

（認）コロナ禍であったが、市内の要請訪問で人数制限をしておのミニ公開を実現できた。参観により保育環境や保育者の関わり方、指導案等、参考になることがあった。

（認）ADの巡回訪問、保育参観後の保育士・保育補助がともに振り返ることができる機会の設定、保育士との面談が有効的で、園長・主任がケアできない部分を補ってもらっている。ADならば気楽に話せる関係性がある。ADからの確かなアドバイスや示唆をいただき、気兼ねなく相談したりできることは保育者の意識の変容につながっている。

（認）地域での研修は大きな学び合いの場になっている。地域の園職員を対象とした研修は参加しやすく、保育補助を対象とした研修等、様々な種類の研修を設けてもらっている。園種が様々であるが一緒に学び合えるよさがある。研修に向かう気持ちが前向きになっていることが伺える。

（保）今年度で配置5年目。ADの存在が当たり前になっており、園長主任には補えないような内容にも触れて指導していただいている。園内で公開保育を行い、一人一人に声をかけ、保育者のモチベーションがアップした。

（保）ADに園内のニーズに応じた対応をしてもらっている。現状や保育者理解のために相談に乗ってもらうこともある。

（団体長）年々園数の減少とこども園化が進んでおり、公開と協議会において、出席者も少なくなってきた。昨年度の公開保育では、近隣の園にも声をかけて参加していただいた。他園の多様な意見に刺激をもらうメリットがあるため、協会では今後も他の団体等に声をかけながら、新しい研修体制を構築していきたいと考えている。

（団体長）県の連合会を中心に、地域毎に数園を単位にして研究班を構成し、テーマを決め研究を進めている。他団体の垣根を越えて進めている話を聞き、自分たちだけの研究になってやしないかと危惧している。

（幼）2年ごとにテーマを選び班ごとに公開保育をし、地区毎に分かれた研究になっている。地域の子どもたちを皆で育てる上で、垣根を越えることは学びを深める意味がある。しかし、参加人数が少ないのが課題である。

（認）保育士がいなければ保育は成り立たず、モチベーションが上がらなければ保育士の仕事は続かず、園や地域に残らない。地域で求められているこども像・人間像は何か。地域、就学前施設、小学校の3つが連携することが大事。

（行）ADの配置も必要なのではと考えているところである。質的な面の支援が他市より遅れているのではないかと危惧しているところもある。

- (行) 当市では来年度から配置を予定。ADを仲介役とし、保育士の意欲充実につなぐことが、子育て支援に直結しているのではと考え事業に参加する。保育の質の向上を目的とするが、保育士が安定して保育が出来ることが保護者の気持ちにも添うことになるのではないかと考え、保育者が安心して勤務できる環境を市として作っていききたい。
- (行) 当市は施設数が多く、認可外を除いても100を超える施設がある。以前は質の向上より質の確保が第一であった。主に監査で訪問するのが主な活動であったが、昨年度からは監査だけでは関係性に課題を感じたため、保育の質の向上のため2名で対応している。要請訪問も今年度から市で行うことにし、様々連携を図りながら進めている。施設のニーズに応えた研修の実施も行えるようになってきている。
- (団体長) 伝統的に行政に口出しされたくないという風潮があるが、各地域における訪問についてお聞きしたい。
- (行) 私立園との関係づくりは難儀することもある。一度関係性が出来るとやっつけられると思っている。難しい面もあるがあきらめず一緒に市の子どもを育てているという思いでやっている。
- (座) そもそも関係が出来ないと難しいと感じている。合わないADに継続的に入られる抵抗感はないのだろうか。相性もあるかと思うが、ADの横のつながり、研修も大事と感じた。また、それぞれの地域における研修会の評価が高い。進んで学ぼうとする研修であることの意味は大きい。先生方が参加して良かったと思える研修でありたいと思う。

b. 協議②：「小学校教育との円滑な接続を支える行政担当課の連携等、組織的・計画的な地域における幼小連携の体制づくり」について

- (認) 現在、地域の中での連携の取り組み具合の差は大きい。一校一園で取り組めるところやそうでないところ等、状況の違いや連携の経緯も異なるため、進んでいるとは言えない。より一層の園と小学校の連携が必要であると感じた。園も小学校も中学校も目指すところの基盤は育みたい資質・能力が同じであること、育みたいことは校種が違って同じであることの確認ができた。保育者が子どもの育ちや学びを小学校の先生方に伝えていかななくてはならないと感じた。そのための研修機会を計画的に設けることを継続していけたらと思う。
- (認) 立地に恵まれていることから古くから小学校との連携が行われている。小学校側の要請により、子どもの交流は今年度は見合わせた。幼小連携については、園と小学校で年間計画を立てている。年間の活動計画を校長・教頭・園長・主任・担任が一緒になって考えている。担任同士ではどのように進めていくか話し合うことができ、年長児は就学への期待、小学生は責任感の醸成が期待できる。しかし、一番大事な職員間の相互理解がないと子ども同士の交流がいくらされても進んでいかないと考えている。参観後の協議に入ることはお互いにまだ十分参加できないため、今後改善を図っていききたい。
- (保) 保育者及び小学校教諭を対象とした研修の機会がある。今年度は市教委を通して園周辺の学校からは交流授業に参加しないかという案内をもらった。2回参加したが園の学びが小、中学校につながっていることを確認できた。そのことが次の保育の活力の基になっている。今年度は小学校の先生が初めて保育参観に来てくださり、保育と小学校のつながりを実感していただいた。
- (行) 当市では幼保小をつなぐ保育ADを置いていない。子どもの発達に関しては特支ADや統括コーディネーターがつなぐ役割をしている。市教委主催の会を3回実施、1回目は小学校教頭と就学前の主任を対象に、連携の課題を明確にする会、その1週間後に2回目を実施。5歳児担任と1年生担任とで年間の活動計画の立案をした。3回目は就学に係る情報共有のために2月下旬に行っている。今年度は5月は実施できなかったが、その代わりに幼小連携に関する資料を配付した。連携についてはこれまでは幼保や小学校に任せていた。昨年度から市教委がつなぎの役目に入ることによって継続的に連携を図っていかれたらと思っている。
- (保) 本市の連携については、小学校区での体制づくりが進み、今までは就学前の側から小学校に保育参観、協議参加について要望したくても遠慮があり消極的であったが、ADの積極的な橋渡しにより、取組が広がったなど連携・接続について現場から様々な意見があった。

- (生) 思いや願いを生かす学習を重視し、具体的な活動や体験を通して感じたり考えたり工夫したりし、問題解決を図りながら自分の思いや願いを実現していく学習過程を大切にしている。
- まだ、課題と感じるのは、教師の思いで子どもを動かしているふうに見受けられることである。自分で作ったおもちゃで思う存分遊ぶ中で気付くこと、これが気付きの質の高まりのほず。存分に遊ぶ中で、とっても楽しいおもちゃだから誰かを招待したいなという思い（気付き）が生まれ、対象として年下の子どもとなるのだろうと思う。子どもたちは就学前で身に付けてきた力や遊びを通して身に付けてきた力があるが、小学校の先生たちの中にはそこに気付いていない方がいるのではないかと感じている。小学校の先生たちには幼児期に育まれた資質・能力を踏まえて、子どもの発達を長期的な視点で捉えて欲しいということを伝えていくところである。
- (小) 本市では、就学前施設と小学校 41 校で幼保小連絡協議会を設置している。連携のあり方について広く意見を交換する、そして実践的な取組を通じて幼小が一層の発展を図ることを目的にしている。
- どんなことを大切にしているかという点、2つ。1つは、子どもの学びと育ちをつなぐため、教師・保育者が連携できていなければならないこと。互いに共通理解を図り、スタカリの編成や改善に生かしていくということが考えられる。お互いの参観を通して学びに向かう姿勢、子どもの活動や体験の様子、指導のあり方について相互理解を深めていく必要があると考えている。6つのブロックに分け、幹事校を置いて、就学前施設訪問と生活科を中心とした授業参観を行い情報交換をしている。今年度は10の姿を視点とした話し合いを各ブロックで協議をしまとめていくことが計画に盛り込まれている。
- 2つめは、児童と幼児の交流の場である。継続的に交流できるよう年間指導計画に位置付ける。交流を通して園児が小学校への期待を高めたり児童が自身の成長を感じたりできるようなねらいを明確にして実施できたらと思っている。今年度はコロナの影響で交流のトーンは例年よりはダウンしているが、日々の情報交換を通して幼保小の連携が必要であると感じている。
- (幼) 本地区では、年長児の後半の子どもの姿からみる子どもの育ちを取り上げ、動画と映像でその学びを見取る研修をした。映像を通して共有を図ることができた。小学校にはいろいろな園から入学してくるためそれぞれギャップがあるが時間が経てば皆慣れてくるから大丈夫で、大事なのは園の生活を通してどのくらい折り合いを付ける経験をしてきているか、またそれを小学校1年で整えるのが小学校の役目なのではないかという話もあった。育った部分をプラスの目でどうつなげていくか大事である。
- (団体長)
- 各園の状況を全て把握しているわけではないが、国公立に関しては一園に対して一校が多いと思っている。10年以上も昔から幼小の連携が図られていると考えている。加えて行政が関わって幼小をつなぐ協議会を継続しており、成果と課題を共有することで地域の子どもの育ちの一貫性を図る上でも行政の関わる意味は大きい。
- (団体長) 私立は一園から数校に就学する。小学校から見ると数園から一校に就学するという関係から、交流・連携の足並みをそろえるという点において連携がうまくいかない事例もある。また、子どもの発達の理解について、小学校の授業参観をしたときに感じたが、幼稚園の見方と先生達の見方の違いを感じた。接続だとすれば、園で受け入れられてきたことを小でも受け入れつつ徐々に小学校に慣らしていくようなことが必要なのではと感じた。
- (行) 本市の施設数は多くない。連携の状況についても公立では一園と一校の交流が図られている。広い自治体のため、地区内で連携が図られていると判断している。地区が異なると職員同士の相互連携は図りづらい。市の課題がそこにあると感じている。
- (行) 幼小連携・接続において、子どもに対してばらばらの目線で向かってはいけない。地域で育つ子どもを皆で育てる体制の必要性、行政の役割の大切さを感じた。
- (小) 幼小双方の先生方と話し合うことを通じて思ったことは、先生方との違和感はなく、目指すものは子どもをよりよく育てていくという点で幼小はつながっている。意味のある交流を進めていくことの大切さを感じた。

(座) 共通認識ができていないと連携が難しいのではないかと感じていた。幼小連携は双方の認識の共有が大切である。継続して子どもを育てていくときに、様々な立場の方々に関わっていただくことの大切さである。また、今日の前の子どもへの見方と、これからという視点で長期的な育ちについての見方、そういう両方の見方が大事だと感じた。年長と小1のつながりだけでなく、0歳児から小6までのつながりを長期的な目で見えていく必要があるのではと感じたところである。

⑥今後の対応

- a. コロナ禍において、身近な地域での研修機会の提供が可能であったことや、ADが園を定期的に巡回することによる園や保育者への支援が途切れなかったことは、市の取組や教育・保育アドバイザーの配置効果として、特筆すべきものと捉えている。また、園や保育者のニーズを踏まえた研修機会の充実が年をまたぐ毎に充実してきていることから、今後も市の主体性を尊重した地域で学び合う体制の支援を県として行っていく。ADを配置していない市町村にはこれまで同様、県として必要な支援をしていくと共に、公開保育を含めた地域での研修機会を推奨していく。
- b. 元小学校長のアドバイザーが橋渡し役となり、園と小学校を結びつけ、相互参観や午後の協議への参加機会増に力を発揮していただいていることが顕著に感じられた。また、各市町村、地域によって幼小連携・接続の状況は違うものの、就学前教育・保育関係者、小学校関係者、行政関係者の相互理解のもと、子どもを育てる方向性について共有が図られていた点は共通していた。地域によって、一様ではない幼小連携・接続の状況でも、育ちをしっかりとつないでいけるようにすることが大事であることが協議された。身近な地域における連携・接続をする当事者間の共通認識は、ますます大事になってくる。令和3年度は、より地域密着の幼小連携・接続体制を充実させるべく、県主催の合同研修会も再編を図っていく。

(2) 事業内容の発信

①就学前教育推進協議会での取組発信

「令和元年度わか杉っ子！育ちと学びステップアップ事業」の報告及び今年度実施市の教育・保育アドバイザーの配置による特徴的な取組や成果を発信した。

②幼保推進課ホームページ

「わか杉っ子元気に！ネット」での取組発信
幼保推進課ホームページ「わか杉っ子元気に！ネット」の「わか杉っ子！育ちと学び支援事業」に前年度の県及び実施市の各事業内容や取組を掲載したが、追加や更新時期が年度末だったため、発信の効果が薄くなってしまった。
次年度は効果的に更新していく。

【掲載及び更新内容】

- ・事業計画書（県及び実施市）
- ・事業実施状況（県及び実施市）
- ※その他必要と思われる内容を随時更新



「わか杉っ子！育ちと学びステップアップ事業」のページ

【URL】 <http://common3.pref.akita.lg.jp/youho/>

③教育・保育アドバイザー未配置自治体の訪問

今年度、教育・保育アドバイザー配置市が5市から6市となり、令和3年度には7市になる予定であり、年々拡充が図られてきている。しかし、今年度はコロナ禍の影響もあり、未配置自治体へ積極的に訪問し、実態や配置に向けた困難さなどを把握することなどアプローチが十分できなかった。次年度は、令和4年度以降の拡充配置増、配置市の取組の充実に向け、訪問を含め、実態把握と情報発信に努めていく。

今後の拡充構想

年度	県北地域・実施市	中央地域・実施市	県南地域・実施市
令和元年	大館市	男鹿市 潟上市	横手市 仙北市
令和2年			大仙市
令和3年		にかほ市	
令和4年	能代市 鹿角市 北秋田市	秋田市 由利本荘市	湯沢市

(3) 事業内容の評価・分析

今年度事業評価指標の作成まで至らなかった。県内教育・保育の状況等の把握・分析を通して事業内容の検討材料とする。

最終年度は、「わか杉っ子！育ちと学びステップアップ事業」アンケート調査を実施し（対象：事業参加市内の県内就学前教育・保育施設等）、令和3年度以降の推進体制の充実・強化に向け活用する。

県と市との連携による取組

3 市教育・保育推進体制の支援

(1) 市教育・保育アドバイザーの育成

①目的

県教育・保育アドバイザーを核とした市教育・保育アドバイザーの育成・支援や、市教育・保育アドバイザーのネットワークを構築する。

②内容

- ア) 「教育・保育アドバイザー連絡協議会」の開催（年6回計画→中止のため4回の実施）
- イ) 市の要請による県指導主事等の訪問支援
- ウ) 幼保推進課所管研修における専門性向上のための情報提供
- エ) 教育・保育アドバイザーの地域での活動の相互視察

③内容の詳細

ア) 「教育・保育アドバイザー連絡協議会」の開催

保育者に対する具体的な指導・助言に関する演習や協議、事例検討、情報交換を行った。園や保育者の課題に対するよりよい指導・助言や支援の在り方や関わり等について考える機会とした。前年度に引き続き県教育・保育アドバイザーのコーディネートのもと、より実践的な内容も含め、年4回実施した。

【参加者】（計15名）

- 県教育・保育アドバイザー（以下 県AD）1名
- 事業実施市教育・保育アドバイザー（市負担AD含 以下 市AD）11名
- 事業実施予定市教育・保育アドバイザー（以下 市AD）1名 ……第6回のみ参加
- 県指導主事2名

【実施日程・場所・主な内容】

回	日時 会場	主な内容
1	5月20日(水) 10:00~15:00 県庁第二庁舎 52 会議室 【中止となり実施市を訪問し、事業説明】	・ 県と事業実施市の連携・協力体制の確認
2	6月24日(水) 10:00~15:00 秋田地方総合庁舎 602・603 会議室	・ 今年度の計画等についての情報交換 ・ 演習「コーチングの基本及び助言方法の実際」
3	7月31日(水) 10:00~15:00 県庁第二庁舎 52 会議室	・ 園訪問(上半期)の成果と課題の共有 ・ 演習「育みたい資質・能力を視点に子どもの育ちを考える」 ・ 演習「園内研修における指導・助言の在り方」
4	10月15日(木) 10:00~15:00 県庁第二庁舎 52 会議室	・ 幼保小連携に係る取組の充実に向けて ・ 演習「幼児教育の質の向上を支える園内研修について」
5	11月12日(木) 9:30~12:00 秋田大学教育文化学部附属幼稚園 【中止】 ----- 13:00~15:00 県庁第二庁舎 52 会議室 【中止】	・ 保育参観(幼稚園 以上児) 幼保推進課所管研修新規採用者研修に参加 ----- ・ 保育内容(保育の見方等)についての協議 ・ 保育者に対する助言方法についての協議
6	1月31日(金) 13:30~15:00 県庁第二庁舎 52 会議室 【オンライン会議に変更】	・ 今年度の成果と課題の共有 ・ 県と事業実施市の次年度に向けての連携体制

【教育・保育アドバイザーの声】

- ・ 県とつながり、共有していける体制がとてもよかった。アドバイザー連絡協議会で得た情報を各園の訪問時に伝えることができた。
- ・ 映像から育みたい資質・能力を読み取る演習では、アドバイザーそれぞれに見方があり、保育を多面的にみる大切さを知った。
- ・ いろいろな園の課題に沿ってアドバイザーとしての助言に日々悩むが、答えを出さなくても話をよく聞くこと、そして目標を明確にしながら、自己決定させていくという大切さを実感できた。
- ・ アドバイザーとして、いろいろな保育者の発言や目標の見通しを持たせるような「意識」をもつことに努めていきたい。各市のアドバイザーの情報共有は、大きな学びになる研修の場である。
- ・ 情報交換で他市の研修や取組を知り、自市の課題に対する取組のヒントを得ることができた。



子どもの姿の見取りについて協議
(秋田市県庁第二庁舎)

イ) 市の要請による県指導主事等の訪問支援

- 園や保育者の課題に対する市アドバイザーの関わりや支援の仕方、悩みに対する指導・助言、研修会の企画・運営等の具体的内容に関することなど、市教育・保育アドバイザーを支援。

b. 県指導主事及び幼保指導員による園訪問への同行

実施市における「公立幼稚園・公立幼保連携型認定こども園計画訪問」「認定こども園訪問」「幼稚園・保育所・認定こども園等要請訪問」時に市アドバイザーが県指導主事及び幼保指導員に同行し、保育の見方や園及び保育者に対する指導・助言方法について理解を深めた。市アドバイザーは県指導主事等と園や保育者の課題解決に向け指導・支援するポイントを共有し、園へ継続的に指導・支援を実施した。

【市ADの同行数】

実施市	回数	前年比
大館市	22	+1
男鹿市	9	+2
横手市	4	-2
潟上市	11	+5
仙北市	8	0
大仙市	15	—

R2.4～R3.3

ウ) 幼保推進課所管研修会における専門性向上のための情報提供

市アドバイザーが幼保推進課主催の研修会に参加する中で、教育・保育内容等の理解を深めたり、研修会開催の企画・運営方法を学んだりした。また、研修で学んだことを園訪問で活用するなど研修の活用に努めている。なお、今年度は、大人数が集合しての研修会が中止となったため、活用した研修は、園内研修リーダー養成講座（研修手法）や年次別研修が主なものであった。研修会の回数は減ったが、市アドバイザーは、少しでも学び、自分たちの訪問や研修会に生かそうと意欲的に参加していた。

【市ADの参加数】

実施市	回数	前年比
大館市	2	-7
男鹿市	12	+10
横手市	7	+2
潟上市	3	-1
仙北市	6	+1
大仙市	3	—

R2.4～R3.3

エ) 教育・保育アドバイザーの地域での活動の実践から学ぶ

他市アドバイザーの園訪問の実際を参観し、園や保育者との関わり方や指導・支援方法について学ぶ機会として実施。

【市アドバイザーに学ぶ研修会】

期日	場所	主な内容・参加者
9月14日 (月)	大館市立扇田保育園	保育参観・園内研修参観・アドバイザー会議 市AD 5名、県AD、県指導主事各1名
9月30日 (水)	男鹿市立若美南保育園	保育参観・園内研修参観・アドバイザー会議 市AD 4名、県AD、県指導主事各1名
11月20日 (金)	仙北市社会福祉法人 はなさき仙北 にこにここども園	保育参観・副園長との振り返りへの助言・アドバイザー会議 市AD 3名、県AD 1名、県指導主事 3名
12月3日 (木)	横手市社会福祉法人山崎 福祉会よこて幼児園	保育参観・園内研修参観・アドバイザー会議 市AD 4名、横手市指導主事 1名、県AD 1名、県指導主事 2名
12月9日 (水)	潟上市立天王幼稚園	保育参観・園内研修参観・アドバイザー会議 市AD 5名、県AD、県指導主事各1名

【教育・保育アドバイザーの声】

- ・実際の場面での伝え方や話し方はよかったか、分かりやすい伝え方であったかを実践を通して学ぶことができた。
- ・「寄り添う、引き出す、一緒に考える」等のアドバイザーのあるべき姿に気付いた。
- ・他市の保育者を育てることの大切さや園内研修の中心となる主任や研修リーダーを育てるという取組について市として弱い部分を把握していた。
- ・園側の要望等の実態把握をしっかりと対応し、アドバイザー側からの一方的な研修内容にならないように配慮していた点を参考にしたい。



子どもの姿からKJ法を使って
園内研修（横手幼稚園）

(2) 市主催研修会の支援

市の課題や園のニーズに応じた研修会を主体的に企画・運営できるように、市の要請に可能な限り対応し、県からの指導者（県指導主事、幼保指導員、県アドバイザー等）を派遣し、市主催研修会を支援した。

保育実践や市の課題に応じた研修会、人材育成に関する研修会などでの活用があった。身近な地域での研修会の開催は、保育者にも好評である。特に今年度は、コロナ禍で集合型研修を実施できなかったが、コロナ禍の地域での研修会に行くこともなく、地域で参加することができたため、好評であった。

市主催研修への指導主事等を派遣した研修会

市	研修会
大館市	ファシリテーター研修会 2回、5歳児研修会
男鹿市	フレッシュ職員研修会、ミドル職員研修
横手市	保育実践力研修会 1回（1回中止）、幼小合同研修会（中止）
潟上市	保育実践研修会（チーム保育）
仙北市	ファシリテーター研修会 1回（2回中止）、新規採用者研修、公開保育研究協議会、保育補助研修会 2回
大仙市	保育実践力向上研修会 2回、就学前教育・保育合同研修会（中止）

【実施市における教育・保育アドバイザーの活用、研修会の実施状況】

ア) 推進体制（各市の状況、政策決定、周知方法等）

市	対象施設数 a 幼 b 保 c 幼保 d 他	a 指導者の配置 b 外部指導者の活用	実施理由 目指す方向性	政策決定者 a 政策の決定者 b 決定の過程	内容の周知	市AD活用 促進の工夫
大館	a. 1 b 公 9 私 1 c 私 8 d 13	a H21 福祉課に保育AD配置 H28 教育委員会に市AD配置 b 県の指導者、市ADを継続活用	教育・保育の質の向上	a 市教育委員会 b 市福祉部局と市の課題を共有し協議	小中学校長会、各園長会、研修会、園訪問時の指導等で周知	リーフレットやお便り「ミニ公開だより」での周知
男鹿	a 公 1 私 1 b 公立 7 d 1	a H28 に市AD配置 b 県の指導者を継続活用		a 市福祉部局 b 市福祉部局内で協議	市担当者と園長会議で周知	園長会議で基本の活用方法決定

横手	a 私 4 b 公 8 私 19 c 私 2 d 7	aH28 に市 AD 配置 R1 市指導主事配 b 県の指導者の活用は多くない	教職員の専門性向上	a 市教育委員会 b 市福祉部局と協議	独自広報紙発行や施設訪問時による周知	広報紙「よこてのめんこ」配付
潟上	a 公 1 私 1 b 公 3 c 公 3 d 5	aR1 に市 AD 配置 b 県の指導者を継続活用	小学校教育との円滑な接続	a 市教育委員会 b 市福祉部局と協議	市担当者と園長会議で訪問周知	毎月の園長会議で活用の基本確認
仙北	b 公 3 c 公 3 私 2	aR1 に市 AD 配置 b 県の指導者を継続活用		a 市福祉部局 b 市福祉部局内で協議	園長会議や園訪問での周知	訪問を通じ基本的な活用を周知
大仙	b 私 14 c 私 9 d 2	aR1 に法人から派遣の市 AD 配置 R2 に市 AD 配置 b 県の指導者を継続活用		a 市福祉部局 b 市福祉部局内で協議	周知パンフレットの配布や施設訪問時による周知	AD 派遣事業実施要項の周知

イ) 市アドバイザー訪問園数と訪問実施率

年度	大館市	男鹿市	横手市	潟上市	仙北市	大仙市
H29 (園)	64	91	208	—	—	—
H30 (園)	71	150	265	—	—	—
R1 実績(園)	112	96	322	96	138	—
R2 目標値(園)	101	114	350	106	202	189
R2 実績(園)	217	131	682	149	282	117
R2 実施率(%)	214.8	114.9	194.8	140.5	139.6	61.9

○コロナ禍の中においても、訪問は予定通りに行うことができおり、目標をほぼ達成していると言える。各市とも、定期的の訪問が図られ継続的、計画的に園や保育者の支援がなされている。

○計画的に、園の訪問がなされていることが、園や保育者と市アドバイザーとの信頼関係構築に効果を生んでいる。

ウ) 市アドバイザー訪問内容

市	園内研修	保育公開	個別相談	実態把握	周知活動	県と同行	その他
大館	27.6(32.7) -5.1	0 (5.3) -5.3	11.5 (5.3) +6.2	3.7(19.5) -15.8	40.6 (15.9) +24.7	9.2 (18.6) -9.4	7.4 (2.7) +4.7
男鹿	41.6(22.4) +19.2	1.7(4.4) -2.7	35.9 (41.3) -5.4	5.2(9.4) -4.2	4.6 (6.5) -1.9	2.6 (5.1) -2.5	8.4(10.9) -2.5
横手	7.0(23.2) -16.2	0 (5.5) -5.5	11.8 (0.9) +10.9	8.8(28.3) -19.5	70.0 (32.2) +37.8	0.5 (1.7) -1.2	9.3 (8.2) +1.1
潟上	25.5(16.6) +8.9	6.6(11.0) -4.4	43.4(41.3) -2.1	6.1(18.3) -12.2	10.2(1.8) +8.4	5.6(5.5) +0.1	2.6(5.5) -2.9
仙北	12.9(12.4) +0.5	7.3(8.0) -0.7	32.3(30.4) +1.9	20.1(23.9) -3.8	16.5(17.4) -0.9	2.3(6.5) -4.2	8.6(1.4) +7.2
大仙	6.1 -	0 -	21.3 -	20.3 -	13.7 -	9.7 -	28.9 -

[上段：R2 年度(R1 年度)の% 下段：前年比]

【事業実施市の園への市アドバイザーによる訪問実態から】

大館市：「園内研修」の割合が高く、K J法を活用した園内研修への支援の充実が図られている。県に同行し、県と市ADが保育の見方や指導助言を共有することできてきているため、継続支援につながっている。コロナ禍のため実施はできなかったが、近隣市町村へ研修参加を呼びかけ、共に学び合う体制づくりを行っている。

男鹿市：「園内研修」の割合が4割を超え、ファシリテーターの育成や園全体の底上げにつながっている。「個別相談」の割合も高く、職員全員との面談を設定し、一人一人との関わりを大切にしている。また、課の所管研修に積極的に参加するなど、自市での実践に生かすため意欲的に取り組んでいる。

横手市：今年度は、認可外、事業所内保育園へと訪問園を広げて「周知活動」を行ってきた。特別支援に関する相談、園内研修等、様々な角度からアプローチを行い、園との関係性を構築している。幼保小連携事業は、市が主体となり進んだ取組が見られることから、より充実が図られるよう、期待したい。

潟上市：「個別相談」の割合が約43%と割合が高く、保育者に寄り添った支援を心掛けている。公開保育研究会やミニ公開など、積極的に園の公開を行っている。また、認可外保育施設等へも園を公開するなど、設置形態等の垣根を越えて、地域で学び合う土壌が作られてきている。

仙北市：「個別相談」の割合が3割を超え、一人一人に寄り添った声かけをしている。市主催の研修会においては、保育者のニーズを把握した上で計画することにより、研修の一層の充実が図られた。常に、園の課題やニーズ等に合わせ、園へ継続支援を行っているため、保育者の前向きな姿勢につながっている。

大仙市：事業初年度ということもあり、「周知活動」「相談・実態把握」に力を入れ、園や保育者との関係性構築に取り組んできた。「その他」に含まれているが、小学校への訪問数も多く、積極的に園と学校の橋渡しをし、幼保小連携に関する体制づくりに取り組んでいる。

イ) 地域で学び合う機会の充実、園や市町村を越えた研修会開催

【実施市での研修会の開催数と参加者】

	大館市	男鹿市	横手市	潟上市	仙北市	大仙市	計
開催数(回)	31(31)	9(5)	1(4)	9(6)	9(7)	2	61(53)
前年比	0	+5	-3	+3	+2		+8
参加者(人)	735(1018)	173(148)	29(210)	140(229)	182(256)	44	1303(1861)
前年比	-283	+25	-181	-89	-74		-558

[上段：R2年度(R1年度)の実数 下段：前年比(回数、人数)]

【分野別研修会開催数】 [上段：R2年度の数(参加者数)、中段：R1年度、下段：R1年度比]

市	市全体	課題別	キャリア ステージ 別	担当年齢 ・職種別	公開保育	その他※	開催数 (参加者)
大館	-	9(301)	4(120)	-	-	5(314)	31(735)
	-	7(213)	4(112)	7(274)	9(247)	4(172)	31(1018)
	-	+2(+88)	0(+8)	-7(-274)	-9(-247)	+1(+142)	0(-283)

男 鹿	1(56)	-	2(29)	3(28)	3(60)	-	9(173)
	-	-	1(19)	-	3(73)	1(56)	5(148)
	+1(+56)	-	+1(+10)	+3(+28)	0(-13)	-1(-56)	+4(+25)
横 手	-	1(29)	-	-	-	-	1(29)
	-	-	-	-	2(129)	2(81)	4(210)
	-	+1(+29)	-	-	-2(-129)	-2(-81)	-3(-181)
潟 上	2(30)	-	-	-	6(98)	1(12)	9(140)
	-	5(196)	-	-	1(33)	-	6(229)
	+2(+30)	-5(-196)	-	-	+5(+65)	+1(+12)	+3(-89)
仙 北	-	4(75)	2(20)	2(32)	1(55)	-	9(182)
	-	3(129)	-	-	4(127)	-	7(256)
	-	+1(-54)	+2(+20)	+2(+32)	-3(-72)	-	+2(-74)
大 仙	-	2(44)	-	-	-	-	2(44)

※その他：幼小接続に関する研修会・事業、市内研究発表会等

市主催の研修として、様々なニーズに対応した研修の開催を目指している。毎年同じ内容ではなく、昨年度の反省を生かし、各市で実態やニーズ等に応じた様々な研修会を企画している。

今年度は、コロナ禍のため、予定通り行うことができなかった市が多かったが、参加人数を少なくしたり、回数を増やしたりと工夫して取り組んでいた。

地域で学び合う研修会となるよう、近隣市町村への研修会・公開研究会への参加の呼びかけも進めているが、今年度に限っては、市町村の行き来が制限され、広域での研修会とはならなかった。

4 成果と課題 (○成果、●課題、◇改善の方策)

(1) 教職員の専門性の向上

①「保育士等が習得すべき資質・能力ガイドライン」の作成

○「秋田県保育者育成指標ワーキング会議」(6/30、9/18)を開催し、保育現場を代表した委員に内容、系統性、文言、活用のための助言等をいただいた。様々な園種、公立・私立、各年代を代表する方々に活発に協議いただき、見直しや修正を図ることができた。初年度の素案が、より保育者や園で活用いただくのに相応しい指標へと改善することができた。

○年次研で活用している「自己到達目標評価表」も育成指標と共に、整合性を図りつつ見直すことができた。

●「自己到達目標評価表」を年次研で活用しているが、さらに各園での積極的な活用を図りたい。評価も「できる・できない」ではなく、自分を振り返ったとき、キャリアに応じた目標設定の指標として実践に生かせるよう、園訪問や研修の機会も含め周知していく必要がある。

◇令和3年度秋田県教職キャリア会議(1回目は6月頃)に「秋田県保育者育成指標」を提案し、ワーキング会議等で協議いただき、必要に応じて修正を重ね、年末には審議をしていたが、完成をさせる予定。

②保育者の専門性向上を図る研修機会の提供

○コロナウイルス感染症拡大防止の観点から、年度前半は中止もしくは延期する研修も多かった。県主催所管研修は、内容の変更や組み替えも含め、1日日程を半日開催に変更す

ることや、受講者をグループ分けすることで密にならない手立て等を講じた。また、一部オンラインでの対応をするなど、不慣れな部分も多くあったが、試行錯誤しながら研修方法を工夫し、保育者の研修機会をなくさないように努めた。

○県と市の連携により、当初予定していた市主催研修は8割方実施することができた。事業を進めてきた中で、遠くへ出かけなくても身近な地域で研修できる体制があることは、このような社会情勢の中で大きな効果を発揮した。

●研修機会をなくさない工夫はしたものの、演習・協議・情報交換等に制限があるため、方法の見直しや限られた条件の中でも研修を充実させる更なる手立てを講じる必要がある。

●園内研修リーダー養成講座は、半分オンラインで実施し、対応にも苦慮した。研修リーダーを育てるために、より実践的な内容や人材育成を主眼とした内容の吟味が必要であった。次年度は、基礎編と応用編の統合を進めており、研修内容の吟味、充実を図る必要がある。

●県主催の幼小の地区別合同研修会は中止となったが、これを機により身近な地域の課題に応じた幼小連携・接続の研修機会の充実を図ることが望まれる。

◇研修機会の提供については、コロナ禍の状況を踏まえ、感染ステージに応じた対応や研修機会をなくさないための主催者側のオンライン対応スキルの向上を図っていく。

◇県と市の連携により、キャリア別など小規模なものから、公開保育を通じた研修会など、地域で学び合う機会の一層の充実を図っていく。

(2) 教育・保育推進体制の拡充

①「就学前教育推進協議会」の開催

○アドバイザーを配置していない行政関係者や就学前施設関係者から、アドバイザーの配置により、地域での公開保育など研修が充実し大きな学び合いの場になっていることや様々なキャリアの方々を対象とした研修会の充実、巡回訪問や指導主事等との重層的な支援等について、肯定的な意見が多く出された。

○協議では、事業を実施してアドバイザーを配置しているかどうかにかかわらず、教育・保育の質の向上や幼小の円滑な接続のために、様々な垣根を越えた地域での連携や具体的な実践、短期的・長期的ビジョンが必要であることが共有された。今後の秋田県をうらなうものであった。

●今後の秋田推進体制の拡充、充実のために、各市町村の行政担当者を主体とした協議の場を設けることも必要でないか。

◇アドバイザー配置に肯定的な意見が多く、引き続き支援体制の充実・拡充を図る。事業最終年度となり、3年間の取組評価の報告、園や保育者に対するアンケートを実施し、事業の効果を検証する。また、検証結果を基に、令和4年度以降の構想について提案し、様々な立場の方々から意見をいただき、今後の推進体制にの充実を反映させていく。

②事業内容の発信

○就学前教育推進協議会で事業内容や取組状況、各実施市の特徴的な取組や効果等について就学前教育・保育関係者や行政担当者に理解や周知を図れた。

○厚生労働省のヒアリングによる本県の就学前教育・保育推進体制を発信。

○山梨県シンポジウム講演で本県の幼児教育センターの体制及び取組について紹介。

●前年度の県や実施市の実践を「わか杉っ子元気に！ネット」へ掲載する時期が遅すぎた。適宜更新を図る必要がある。

●未配置市町村への訪問や情報発信が十分できなかった。

◇次年度以降の意向調査前に、未配置市町村を巡回し、実態把握や情報提供を実施する。

③事業内容の評価・分析

●事業の評価指標の作成ができていない。早期完成の必要がある。

◇就学前施設へのアドバイザー配置、活用に関するアンケートを実施するとともに、事業3年目（最終年度）の評価分析を行う。県としての今後の方向性を示す。

(3) 市教育・保育推進体制の支援

①市教育・保育アドバイザーの育成

ア) 「教育・保育アドバイザー連絡協議会」の開催

- 今年度、市アドバイザー配置市が5市から6市に増えたり、市アドバイザーが新しい方になったりと協議会メンバーに変更があったが、他市とのネットワークも広がり、他市の取組を自市の実践に取り入れたり、他市の研修会に参加したりするなどアドバイザーの意識の向上が見られた。
- 「教育・保育アドバイザー連絡協議会」は、保育者への指導・助言、園内研修への支援方法等を考える機会となっている。アドバイザーの評価が高く継続希望がある。
- 年度当初の連絡協議会が中止となり、各市へ訪問を行った。市アドバイザー・事業担当者と担当指導主事が共通理解を図る場となったが、全体で事業の確認ができず、各市の足並みが揃わない点も見られた。
- ◇アドバイザーの増加に伴い、経験年数の違いも配慮しつつ連絡協議会の内容の見直しを図るようにする。内容については、各市の実態も異なるが、市アドバイザーの要望も取り入れながら、基本的なことから実践的なことまで幅広く行う。
- ◇アドバイザー連絡協議会の初回と最終回に市担当指導主事も参加し、共通理解を図る。
- ◇アドバイザーが増えることによる細やかな対応、アドバイザーが入れ替わることによる人材育成への対応を県で支援する必要がある。

イ) 市主催の研修会の支援及び市の要請による県指導主事等の訪問支援

- 市が主体的に企画・運営できるように、市のニーズや課題に即した要請に可能な限り対応し、県からの指導者を派遣し、市主催研修会を支援することができた。研修会としては保育実践や市の課題に応じた研修会、人材育成に関する研修会などでの活用があった。
- コロナ禍で広域での研修会ができない中、身近な地域で行われる研修会に参加することができ、好評であった。反面、やはり開催することに抵抗を示す受講者も見られたため、参加人数、会場、参加方法等、今後も考えていく必要がある。
- ◇指導主事等訪問への同行では、指導・助言方法について理解を深めると共に、課題や情報の共有を図り、園や保育者に対するその後の継続的支援につなげることができている市がある反面、指導の方向性や継続支援に課題を残した市もあった。課題については担当指導主事と市アドバイザーの連携を密にし、関係性の構築や状況把握に努め、園や保育者に対する継続的な支援体制になるよう改善を図る。
- ◇来年度も指導主事等との同行を促し、園を重層的に支援していく。
- ◇実施市の近隣市町村にも研修会の開催を促してきたが、コロナ禍と重なり、今年度は地域をまたいでの広域での研修会ができなかった。来年度も状況に応じて開催を支援していく。

ウ) 幼保推進課所管研修会における専門性向上のための情報提供

- 県所管研修への参加は、市アドバイザーの専門性の向上を図る機会、市主催研修の企画・運営方法を学ぶ機会となっている。また、自市の保育者が所管研修においてどのような研修を積んできたのか実態をつかむ点でも有効である。また、学んだことを指導・助言に活用し保育改善や園内研修の改善に役立てていた。
- 保育経験のないアドバイザーもいるため、様々な研修手法のスキルや保育の見方・考え方、記録の仕方等を園訪問時の指導・助言に役立てることができた。
- ◇保育者や市アドバイザーの専門性の向上につながるため、来年度も県として研修を継続し、乳幼児理解、障害児保育、子育て支援等、必要な様々なカテゴリーに応じた研修機会を提供する。

エ) 市教育・保育アドバイザーに学ぶ研修会

- 他市の園をアドバイザーたちが参観することで、園や保育者との関わり方について学ぶ機会となった。例えば、保育者が主体的に考えや思いを出せるような問いかけや相づち、雰囲気づくり、園内研修における軌道修正を行う姿等を学ぶことができた。
- 自市の課題となっている点をあえて参観のポイントに設定し、事後に参加者で協議を行うなど工夫した取組が見られ、市アドバイザーが互いを参観することは大きな刺激にもなった。(令和2年度は、大館市、男鹿市、横手市、潟上市、仙北市で実施)
- ◇今年度は、全員での参観はできなかったが、来年度も少人数で開催し、アドバイザーとしての専門性の向上を図る。

②県と市の連携による園の重層的支援

- 県指導主事等の園訪問に市アドバイザーが同行し、園や保育者のよき課題等を共有し、同一の方向性で継続的な支援を心がけている。
- 市アドバイザーは、組織的・計画的な研修の推進やファシリテーションに関する指導を県指導主事等に依頼し、その指導の視点を基に園に関わり、園内支援を継続している。
- ◇今年度は、訪問が中止となった園もあったが、今後も、園訪問同行の際に園の課題と指導の方向性を県と市が共有しつつ園を継続的に支援することで、質の向上につなげる。

実施市の具体的な取組(大館市)

1 教育・保育の現状と課題

- (1) 教育・保育の質の向上に向けて、教職員の資質向上、園内リーダーの養成と園内研修の充実等の体制が構築されたが、それらの幼児教育センター機能を安定させていく必要がある。
- (2) 多様な保育施設、多様な働き方の職員が協働する中、市が目指す就学までに育てたい力、保育・教育の在り方を共通理解し、具体的実践に移していくには園ごとの温度差がある。
- (3) 小学校との情報共有、合同研修はあるものの、小学校入学後の生活や学習への適応や指導に困難を抱える事例が見られる。

2 令和2年度の目的、重点、実施内容

【目的】

- ・大館ふるさとキャリア教育の理念のもと、どの施設においても大館の子どもが、発達に応じた質の高い教育・保育が保障される体制を、子どもに関わる全施設・学校が構築していく意識を醸成する。そのリーダーシップを教育・保育アドバイザーを中心に教育委員会と福祉部子ども課が協働体制で担っていく。
- ・各施設が必要に応じて、継続的に支援を受けることができる新たな基盤づくりに取り組む。

【重点】教職員の資質向上に向けた研修会、幼保小連携体制を見直し、一層の充実を図る。

【実施内容】

- (1) 教育委員会と子ども課の連携による幼児教育センター機能の運用
 - ・教育委員会教育研究所と福祉部子ども課、基幹保育園の連携体制による訪問指導、事業・研修会を共同開催
- (2) 教育・保育アドバイザーによる市内全園への巡回訪問・指導
 - ・教育委員会教育研究所に、教育・保育アドバイザー1名を継続配置
 - ・市福祉部子ども課の保育アドバイザーと本事業の教育・保育アドバイザーを核に据えた訪問指導体制

- (3) 教育・保育アドバイザー並びに市内全園の研修リーダーの養成
 - ・基幹保育園、園長会議、主任会議との連携による研究推進
- (4) 就学前施設・小学校の教職員を対象にした合同研修会の充実
 - ・市主催による合同研修会、相互の研究会への参加の促進
- (5) 秋田県教育庁幼保推進課との連携体制の強化
 - ・県就学前教育推進協議会、アドバイザー連絡協議会への参加
 - ・最新情報を得ながら、県からの助言をもとにした体制や研究内容の見直し

3 令和2年度の実施状況<○成果 ●今後の課題 ◇改善の方策>

(1) 教職員の資質向上に向けた市独自の研修の充実

- ・各園のニーズに応じた研修内容、若年層の保育技術向上に向けた実践的研修の見直し

①食育研修会 (9月8日 中央公民館)

参加者：保育教諭・保育士・栄養士・調理技師 48名

内容：講話「乳幼児の食事について」

福祉部健康課 管理栄養士 佐々木ひとみ氏

感想：栄養士や調理師の方の思いにも触れる事ができ、新鮮でした。園内でのメニュー会議をして連携をしていくことが大事であると感じました。(保育士)



食育研修会 講話

②新規採用者・2年経験者研修会 (7月13日 中央公民館)

参加者：新採用1～2年目の保育教諭・保育士 28名

内容：「乳幼児理解に基づく環境の構成と保育者の関わり」

講師：子ども課 工藤英子

感想：写真を使い分かりやすい内容で、改めて自分の保育観や行動を見直す事が出来た。保者として何を一番に考えなければならないのか。誰のためにするのかを考える必要があることを学ぶ事が出来た。(新規採用者)

③発達支援セミナー (7月31日 中央公民館)

参加者：保育教諭・保育士・保育補助・サポーター 49名

内容：講話「経験と勘に頼らない指導の法則～効果のある対応には理由がある」

講師：比内支援学校 間嶋 祐樹 教諭

感想：現在担当しているクラスに、切れやすい子、その子を挑発する子がいて毎日ぐったりの状態でしたので、先生のお話を聞いて良かったです。(保育教諭)

- ・子どもとの関係性が保育現場でもとても大切だと思った。まずは、子どもに「好きになってもらう」ことに重きを置いて、子どもたちと向き合っていきたい。

④ファシリテーター研修会 (基礎編8月27日・応用編9月8日 中央公民館)

参加者：主任・保育教諭・保育士 81名

内容：講話「育みたい資質能力を視点とした子どもの見取りとSOAP型保育記録について」

講師：秋田県教育庁北教育事務所 庄司伸子指導主事 武石郁子指導主事 日景恭子幼保指導員

感想：一人一人の遊びが学びにつながっていることを理解し、次の育ちに対しての計画を分かりやすく伝えられるようにしていきたい(課題の明確化) 様々な人の意見を求めていく大切さに気付きました。まとめることは次の課題とし、まずは意見を多く引き出すことを目指したい。

- ・日誌や家庭へ知らせる毎日のホワイトボードでSOAPを活かしていきたい。



⑤主任等研修会（9月11日 中央公民館）

参加者：主任・保育教諭・保育士 31名

内容：講話「保育の質の向上に向けた主任等の役割」

講師：大館市立釈迦内小学校長 花田 一雅 氏

感想：リーダーシップを学んだ後に、マシュマロチャレンジの演習をしたことで、協働しあう楽しさ、共感してもらえる嬉しさを感じられ、学んだことが心に響いてきました。



主任等研修会のグループ演習

⑥保育実践研修会(10月12日 長木公民館)

参加者：新規採用者～11年目保育士、保育教諭 30名

内容：基幹保育園5園の主任による絵本の読み聞かせ、手作りおもちゃ、ハンカチ遊び手遊び、伝承遊びについて

感想：楽しい内容で温かい雰囲気だったので「保育っていいな」と感じられ、早く園に戻って保育したいと思いました。座学にはない、すぐにできる良さがありました。



保育実践研修会伝承遊びの演習

⑦園長等研修会（11月20日 中央公民館）

参加者：園長・副園長等 31名

内容：講話「ふるさとキャリア教育10年～大館の子どもたちの変化～」

講師：大館市教育委員会 教育監 山本 多鶴子 氏

感想：大館の学校の現状を知ることができ、これからやるべきことが沢山あることを再認識した。保護者との信頼関係のもとに、円滑な教育・保育が成り立つことをこれからも心にとめたい。園児数減少が悩みですが、その割に気になる子が反比例して増えている。長い目で成長を見据え、五感を育てる保育の大切さを見直し、実践していきたい。

- ・子どもの将来を見据えて保育をしていくことが大切であると学んだ。子どもの就学以降の課題について、自園の保育士にも伝え、豊かな人間形成と発達理解を踏まえた保育の大切さを伝えたいと思う。

⑧5歳児研修会（11月24日 中央公民館）

参加者：5歳児担任・主任 32名

内容：講話「就学を見通した5歳児後半の保育、保育要録について」

講師：秋田県教育庁北教育事務所 庄司伸子指導主事 武石郁子指導主事

感想：就学前の引継ぎを行う際、子どもの気になる面を中心に話してしまいがちだったが、育っている面、伸びてきている面を伝えることが大切だと感じた。要録の書き方について、子どもの良さを捉える目、保護者の関わり、具体的な手立てを含めた文章の記入の難しさを感じた。他園の先生方の文章にも触れることができ、自分にはない書き方や捉え方を知ることができ勉強になった。

- ・5歳児の担任として、子ども達の成長をしっかりと肯定的に捉えながら残り4か月、子ども達の育ちを支えられるような関わりを、今一度考えなおしていこう！と感じられた研修会となりました。要録の演習の機会を持つことができ、自分の中で不安感が軽くなりました。充実した時間をありがとうございました。

⑨基幹保育園主催の研修会：オーダーメイド研修

研修テーマ	講師	企画園	期日	参加人数
授業を保育に活かす テクニックについて	比内支援学校教諭	城南分園	8月18日	17人
省エネ・節約手法について	東北電力秋田県北 営業所職員	有浦保育園	9月3日	22人
レッツゴー！木育ひろば	アミュージングサポート 『遊ぶ』河田美智子	城南保育園	10月1日	27人
0～1歳の保育を考える ～愛情豊かに応答的に～	北教育事務所幼保指導員	扇田保育園	10月21日	37人
鑑賞教育エレクトーン演奏	ヤマハ音楽教室講師	たしろ保育園	10月22日	20人

⑩基幹保育園主任会議との連携による研究推進（月1回）

⑪園長会、所長会への参加、情報提供や協力要請（月1回）

⑫各小学校低学年研究授業へ参加できるように市教委から各園への通知（中止）

○市主催の各種研修内容について、対象や目的を明確にした改善を図ったことで、参加者意識の共有や専門知識の向上につながっているのではないかと考えられる。研修会の講師を外部ではなく、園長や主任等が担うことで人材育成へ主体的に関わる意識が高まりつつある。

- 研修参加者が偏りがちになる。そのため他市町村との交流がますます必要になるとと思われる。
- ◇多様な実践を交流し、互いの刺激にするため、子ども課から他市町村へ研修案内で周知する。

(2) 「教育保育アドバイザーによる園や保育者への充実した支援」

- ・市福祉部子ども課の保育アドバイザーと本事業の教育・保育アドバイザーを核に据えた訪問指導の充実、拡大

【令和2年度アドバイザーによる巡回訪問・指導実績（大館市）】

⑥派遣実績 計43施設/全51施設 217回	
回数	<ul style="list-style-type: none"> ・幼稚園：私立1園（4回） ・保育園：公立9園（89回）、私立1園（5回） ・幼保連携型認定こども園：私立8園（38回） ・その他の施設：〈へき地保育所7園（45回）児童館0か所（0回）、小規模保育施設1か所（3回）、認可外保育施設2か所（4回）、事業所内保育施設6か所（12回）、一時預かり施設1か所（2回）、病児保育施設2か所（4回）〉 ・小学校：17校（12回）
訪問内容	<ul style="list-style-type: none"> ・園内研修支援（保育改善、テーマ別、研修方法、研修計画）（目標のうち、16園（62回）） ・公開保育支援（指導・助言、公開保育研究会の運営・準備）（目標のうち、1園（2回）） ・個別相談（保育者の面談及び指導等、園の課題解決対応等）（目標のうち、4園（25回）） ・状況把握（保育の状況観察、園長等への聞き取り調査）（目標のうち、9園（9回）） ・周知活動（広報紙等での取組経過の伝達、事業内容説明）（目標のうち、38園（83回）） ・県と同行（指導方法研修、園の課題共有、指導内容の明確化）（目標のうち、20園（20回）） ・幼小接続（幼小接続に関する調査及び事業等）（目標のうち、11校（12回））
理由	<p>基幹保育園である公立保育園への年間を通じた継続的な支援により、市が目指す保育の方向性を具現化するとともに、園内研修のモデルとして他園にも広げていく役割を果たす。私立園やへき地保育所には、研修や訪問のメリットを具体的に周知するための訪問を増やす。</p>

- 信頼関係が構築されてきたことから毎月の指定訪問園や園内研修支援を要請する園が増えた。またファシリテーター研修会後からすべての園でKJ法を活用した園内研修を行うようになってきた。研修の進め方やKJ法について細かく助言しながら職員に寄り添ってきたことで、全職員で子どもを読み取ろうとする職員の変容が見られる。
- 年度末に各園の次年度の研修計画に携わったことで、早い段階から園内研修を進めることができた。
- こども園との関係づくりが難しい。
- スムーズな協議へつなげるためには、主任や研究リーダーと事前の打ち合わせをすることが有効だが、訪問にも偏りがある。
- ◇基幹保育園以外の園長会、主任会への出席等連携を働きかける。
- ◇こども園については、特別支援教育関係者との同行など、きっかけ作りを大切にする。

(3) 「専門性の向上のための研修の充実」

- ・教育・保育アドバイザー並びに市内全園の研修リーダーの養成
- ・基幹保育園、園長会議、主任会議との連携による研究推進
- ・質の向上へつなげるために県指導主事による要請訪問の基幹保育園園長同行
- ・専門性向上のための他園の園内研修への参加
- 研究リーダー、ミドルリーダーを中心に、全職員での研修体制が構築されてきたことで、様々な方法で園内研修の充実が見られてきた。
- コロナ感染症予防からミニ公開保育を中止にした。そこで、各各園では、独自に園内のミニミニ公開を行い、職員間で指定クラスを見合う研修体制が増えてきた。
- 訪問時の助言等に悩むことが多い。
- ◇園へ提供できる最新情報や役立つ情報を常に収集し、それらを学び助言等に活用できるようにする。

(4) 「小学校教育との円滑な接続に向けた研修等の充実」

①就学前施設・小学校の教職員を対象にした合同研修会の充実

- ・互いの職場体験、見学の促進（交流中止）
- ・就学後の姿をもとに協議、育ちをフィードバック（学区毎に随時）
- ・研修対象に応じた内容の見直し（幼保小連携推進会議、幼保小担任研修会中止）

②大館市教職員夏季研修会（7月30日 秋田職能短大）

演 題：「ペアレントトレーニングを生かしたティーチャーズトレーニング」

講 師：大館市子ども課 巡回支援専門員 畠山 佳子 氏

参加者：幼保小中 87名

感 想：子育てに悩んでいる家庭があるので、ぜひ、ペアトレを勧めたい。どうしたら、構えずに足を運んでもらえるのか悩んでいる。

演 題：「不登校や発達障害のある子どもへの相談支援と保護者対応について」

講 師：秋田大学教育文化学部 教授 柴田 健氏

参加者：幼保小中 104名

感 想：友達同士の関係づくり、その家族との関係性など、社会生活の中での支えがどうあればよいか難しいと感じている。

③学区の合同研修：小学校の指定訪問への参加、園の外部評価への小学校教員の参観（中止）

④市教職員研究実践発表会（令和3年1月8日 中央公民館）

- ・「響学」へ向かうための就学前の育ち

(5) 「県との連携体制の充実」秋田県教育庁幼保推進課との連携体制の強化

- ・就学前教育推進協議会、アドバイザー連絡協議会への参加
 - ・県幼保推進課・北教育事務所の要請訪問への同行
 - ・北教育事務所指導主事等との打合会の開催（年3回）
- 県の指導主事と一緒に要請訪問への同行させていただくことで、保育の見方、指導助言を共有することができた。
- 教育・保育アドバイザーの資質向上に有効な機会となっている。
- 他市の教育・保育アドバイザーとの情報交換が事業や研修のPDCAに生かされている。
- 研究協議と指導・助言の時間のバランスを調整し、市としての立場を明確にして訪問する。
- ◇県の指導主事による指導内容と、市のアドバイザーによる助言の役割分担を明確にするため、事前の打合せをしっかりと行う。

実施市の具体的な取組（男鹿市）

1 教育・保育の現状と課題

- (1) 教育・保育アドバイザーの継続的な支援のもと、保育者の研修意欲の高揚を発展させ、就学前教育・保育の推進体制を定着させていくことが課題である。
- (2) 市教育委員会指導主事と教育・保育アドバイザーの連携による接続を見通した教育課程の編成を目指し、接続期の質の高い教育・保育体制の充実・強化が必要である。

2 令和2年度の目的、重点、実施内容

【目的】

- ・教育・保育アドバイザーの各園巡回指導及び助言により、各園の課題解決に寄り添ったきめ細やかな支援を継続し、保育者の研修意欲の高揚の発展と保育の専門性の向上を図る。
- ・教育・保育アドバイザーによる職員個人面談を実施し、一人一人が抱えている悩みや気になっていることに寄り添うことで保育者の内面を支え、応援していく体制づくりに努める。
- ・現場において必要としている研修を提供することで、保育者の専門性の向上を図る。
- ・市教育委員会学校教育課指導主事等と、接続を見通した教育課程の編成、実施に向けた意見交換などの連携を充実する。

【重点】

- ・公開保育研修会等による地域で学び合う体制づくり【2019年度からの継続】
- ・小学校教育との円滑な接続に向けた研修の充実と教育課程の編集・実施

【実施内容】

(1) 教育・保育アドバイザーの配置

市に教育・保育アドバイザーを配置し、各就学前施設の課題解決に向けた継続的な支援と、県の教育・保育アドバイザーと連携しながら、課題解決に向けた方策を探る。

(2) 教育・保育アドバイザーによる市内就学前施設の指導・助言

教育・保育アドバイザーによる訪問指導、園内研修の支援、ミドルリーダーの育成、保育者の面談によるきめ細かな指導・助言を行う。県と連携した保育の継続的指導を行う。

(3) 市内就学前施設等の職員研修会の実施

キャリア別研修などにより、人材育成や保育者の専門性の向上を図る。各施設の課題の共有及び解決への過程を県指導主事、県教育・保育アドバイザーと連携し、継続的に導いていく。

(4) 公開保育研修会を核とした学び合う体制づくり

市内就学前施設の公開保育により、各園の良さや課題の明確化をし、施設間の交流体制を作る。また、市内施設、小学校、及び近隣市町村と地域で学び合う体制を構築する。

(5) 県との連携体制の活用

県の就学前教育推進協議会、県主催の研修、教育・保育アドバイザー連絡協議会に参加し、教育・保育アドバイザーの質の向上を図ると共に、地域での教育・保育推進の支援、情報共有、活動を円滑に行う。

3 令和2年度の実施状況<○成果 ●今後の課題 ◇改善の方策>

①教育・保育アドバイザーの配置

- ・円滑な幼保小接続のための就学前教育の質的向上を図るため、市内就学前施設への巡回指導・助言を実施する。
- ・市内就学前施設等の職員研修会や公開保育研究会において、指導助言を行う。
- ・教育委員会学校教育課指導主事等と接続を見通した教育課程の編成、実施に向けた意見交換などの連携を充実する。

○担当課から教育委員会へ働きかけ、各小学校での幼保小連絡協議会に同席させていただくことができた。

●教育課程、保育課程の編成に向けた教育委員会学校教育課指導主事との意見交換等の実施、実現には到っていない。

◇接続期の重要性の認識を共有するために教育委員会学校教育課指導主事等との連携に努める。

◇幼保小においても接続期の重要性が共有できるように様々な機会を通して働きかけていく。



保育参観後の職員との個人面談の様子

②教育・保育アドバイザーによる市内就学前施設の巡回指導・助言

- ・教育保育アドバイザーによる公私立幼稚園、保育園等の訪問指導により、各園の保育指導、園内研修支援、研修リーダー育成、保育者の面談によるきめ細かな指導助言を行う。

【アドバイザーによる巡回訪問等実績(男鹿市)】

派遣実績 計16施設/教育保育施設10施設 小学校6施設 131回	
回数	<ul style="list-style-type: none"> ・幼稚園：市立1園(10回)、私立1園(11回) ・保育園：市立6園(83回) ・保育所型認定こども園：市立1園(14回) ・その他の施設：(事業所内保育施設1か所(2回)) ・小学校：6校(11回)
訪問内容	<ul style="list-style-type: none"> ・園内研修支援(保育改善、テーマ別、研修方法、研修計画) (実績のうち、9園(99回)) ・公開保育支援(指導・助言、公開保育研究会の運営・準備) (実績のうち、8園(10回)) ・個別相談(保育者の面談及び指導等、園の課題解決対応等) (実績のうち、9園(55回)) ・状況把握(保育の状況観察、園長等への聞き取り調査) (実績のうち、9園(27回)) ・周知活動(広報紙等での取組経過の伝達、事業内容説明) (実績のうち、9園(9回)) ・県と同行(指導方法研修、園の課題共有、指導内容の明確化) (実績のうち、8園(9回)) ・幼小接続(幼小接続に関する調査及び事業等) (実績のうち、6校(11回)) ・特別支援訪問 (実績のうち、7園(9回))

成果と課題	<p>○市内の公私立幼稚園・保育園正職員との個別面談を実施し、アドバイザーの存在が職員の「安心」につながる事ができるよう努めた。</p> <p>○継続的に訪問支援することで、保育者や園児の変容を追っていくことができた。それぞれの成長や頑張っている姿を伝え、自信へとつなげてきた。</p> <p>○園内研修や市主催の各種研修への積極的な参加が見られ、自身の保育や園へのフィードバックとなっている。</p> <p>●個人面談について、臨時職員や他業種職員とは未実施となっている。保育を支えてくれているそれらの職員ともより連携を深めることで、園全体の質が向上すると思われる。</p> <p>●指導案や記録の記入の仕方には個人差がある。保育の振り返り時等で具体的に伝えているが、改善が難しいケースもある。</p> <p>●園内研修においては、園によって取り組み方が違う。また、参加者のモチベーションやスキルも違う。一人一人のキャリアやパーソナリティを尊重しつつ全体の底上げが必要ではないか。</p> <p>◇次年度の個人面談は、継続してきめ細やかな支援が全体に出来るように対象者をリーダー保育士と異動職員を計画している。</p> <p>◇多くの職員が悩みながら日々取り組んでいる指導案作成や記録記入の仕方についての研修会を予定している。</p> <p>◇園訪問において、保育参観と保育の振り返り、園内研修と研修の振り返りをその都度セットで行うことを年度当初に周知していくようにする。</p>
-------	---

③市内就学前施設等の職員研修会の実施

- ・ミドルリーダー研修、新任者研修、担任研修などの研修により、保育者の専門性の向上、各施設の課題の共有及び解決への過程を秋田県指導主事、秋田県教育・保育アドバイザーと連携し継続的に導いていく。

【保育補助研修会】

令和2年5月27日（水）13:00～15:30 参加者：8名

令和2年5月29日（金）9:30～11:30 参加者：10名

令和2年6月2日（火）13:30～15:30 参加者：10名

講話：「園での子どもへの関わりについて」

講師：男鹿市健康子育て課 教育・保育アドバイザー 泉 文子

教育・保育アドバイザー 高野桂子

○職員としての基本的な態度や服装、言葉使い等について学び合うことにより、乳幼児施設で働く職員としての自覚が高まった。

○一緒に保育をしている担任や子どもとの関り方を意識しながら考えて働くようになった。

●今後は「保育補助として保育士等との連携について」の研修が必要と思われる。

◇巡回の機会に保育士と同様、必要に応じた保育補助への支援も行う。

【フレッシュ職員研修】

令和2年7月7日（火）13:00～16:00 参加者：11名

講義演習：週日案の書き方について

講師：秋田県教育庁幼保推進課 幼保指導員 尾形真紀子 氏

教育保育アドバイザー 佐藤博英 氏

○指導案作成にあたり、悩んでいたことや曖昧にしてきたことが解決できつつある。園訪問において研修を受けた保育者の指導案の書き方や保育の見方が徐々に改善されてきている。

○演習では他園の指導案を持ち寄り見合ったり指導案を作成したりしたことで、自園の指導案に反映することができたという後日談があったことから研修の成果は大きかった。

●指導案の書き方については個人差が大きい。そのためフレッシュ職員に限定せず、研修対象者を全保育者に広げていくことが必要である。

●指導案に基づく保育実践の振り返りや評価の仕方が弱い。今後は保育の振り返りや評価について学ぶことが必要と思われる。

◇研修後の研修者の姿や行動に成果が見られたことから、次年度は全職員を対象とした研修を予定している。



フレッシュ研修の演習の様子

【保育実践力向上研修（全体研修）】

令和2年10月10日（土）10：00～11：30 参加者：56名

演題：「特別な配慮を必要とする子どもの理解と手立てについて

～一人一人特別でない特別支援の円滑な移行～

講師：秋田県立支援学校天王みどり学園 教諭（兼）教育専門監 新目敏子 氏

○アンケートから、インクルーシブ教育とは、個別指導（支援）計画の必要性、発達障害への理解と支援等について学ぶことができた。また、保護者と連携しスムーズな就学につなげていきたい、愛着関係を構築していきたい等、今後の自分の保育の方向性を再確認することができたという内容の記述が多く、意識の高まりを読み取ることができた。

●より多くの職員が参加できるように、今後は研修環境の在り方についてリモート研修を含め検討が必要と思われる。

◇一堂に会しての研修の在り方を検討する。

【ミドル職員研修】

令和2年11月10日（火）13：30～16：00 参加者18名

講演：「園を支えるリーダー職員として」

講師：秋田県教育庁幼保推進課 主任指導主事：佐藤伸剛 氏

○アンケートから、「ミドルリーダーに求められている資質や行動等について具体的に学ぶことができた」「今後はしっかりとした自分でありたい」等という意見が多く、保育の質を高めていくためミドルとしての意識が高まった。

●学んだことが生かされるよう園訪問において個々を応援していくことが必要である。

◇今回受講しなかった職員を対象とし、ミドルリーダーの育成を継続する。

④公開保育研修会の実施を核とした学び合う体制づくり

- ・市内就学前施設の保育公開により各園の課題を明確化し、施設間での交流体制をつくることで、市内施設、小学校、及び近隣市町村との地域で学び合う体制を推進する。

【公開保育】

- ・脇本保育園 令和2年 9月10日（木）
- ・五里合保育園 令和2年12月 4日（金）
- ・船川保育園 令和2年12月16日（水）

- 今年度初めて教育委員会の理解を得ながら幼保小連携協議会に同席することで、円滑につなげていくための体制づくりにつながったと思われる。
- 公開保育は感染症拡大防止のため参加者を市内に限定し参加人数を制限しての開催としたが、小学校からの参加があり幼稚園や保育園の理解につながった。
- 保育実践力向上研修会に市内6小学校から2校の参加があり地域で学び合う体制が芽生えつつある。
- 公開保育への参加は各小学校でばらつきがありPR方法の検討が必要である。
- 公開保育等における1年生担任や低学年担任の参加について検討が必要である。
- ◇教育委員会学校教育課と連携を取りながら就学前教育合同研修会（仮名）の実施の検討。
- ◇公開保育日、出席依頼とともに、午前の保育参観のみではなく午後からの協議への参加もいただくよう働きかけていく。



多様な視点で語り合う園内研修の様子



園内研修（小学校教諭参加発言の様子）

⑤ 県との連携体制の充実・活用

- ・秋田県の協議会、研修会、連絡会に参加し、県指導主事、県教育・保育アドバイザーとの支援、連携体制のもと、アドバイザーの質の向上、研修により、地域での教育保育体制の支援、情報共有、活動を円滑に行う。
- 指導主事要請訪問に同行したり、県アドバイザーから指導助言を受けたりしたことにより、「伝え方のポイント」や「保育の見取り方」を学ぶことができた。訪問の際の指導助言の参考となっている。
- アドバイザー連絡協議会や各種研修では、アドバイザーとして園内研修の取り組み方等について学ぶことができた。
- 要請訪問における資料や指導案作成において、各園によって取り組み状況や考え方が様々であることから伝え方やアドバイス等が難しい。
- ◇県との連携を密にしながら様々な事柄について確認したり教えていただいたりしながら進めていく。

実施市の具体的な取組（横手市）

1 教育・保育の現状と課題

- (1) 各就学前施設において実施している、特徴ある保育に配慮した支援の在り方について検討が必要である。
- (2) 就学前施設と小学校との接続連絡会の設置や交流内容にばらつきが見られる。
- (3) 小学校・就学前施設教職員等の双方における子どもの学びの理解が不十分である。

2 令和2年度の目的、重点、実施内容

【目的】

本市において平成28年度より実施の「わか杉っ子！育ちと学び支援事業」の成果を踏まえ、就学前施設の教育・保育の質のさらなる向上と小学校との円滑な接続に向けた環境を整える。

【重点】

県と連携しながら、就学前施設の教育・保育の質の向上と小学校との円滑な接続に向けた体制を構築する。

【実施内容】

- (1) 部局間連携による教育・保育推進体制の充実
 - ・市の小学校教育指導担当課である教育指導課に、指導主事1名と教育・保育アドバイザー2名が事業を実施することで、幼小接続に向けた連携を強化する。
 - ・教育指導課（小学校教育指導担当課）と子育て支援課（就学前教育保育担当課）との連携体制を確保する。
- (2) 教育・保育アドバイザーによる園の支援
 - ・就学前施設の教育・保育の質の向上を目指し、保育力向上への取組として、指導主事と共に就学前施設における要請訪問による助言と園内研修支援を継続的に実施する。
- (3) 専門性の向上のための研修の充実
 - ・就学前施設の教育・保育の質の向上に向けた取組として、就学前施設の課題に応じた研修会を開催する。
- (4) 小学校教育との円滑な接続に向けた研修等の充実
 - ・就学前教育・保育と小学校教育の円滑な接続のため、育ちと学びに対する幼保小相互理解を図る取組として、研修会の開催、教職員の体験事業の継続実施、幼保小自主事業への支援を行う。
- (5) 県との連携体制の確保
 - ・県の幼児教育推進協議会、アドバイザー連絡協議会や研修会への継続参加をしていく。
 - ・県教育庁幼保推進課指導班からの助言をもとに体制の見直しを図る。
 - ・県教育庁南教育事務所総務・幼保推進班指導主事や県教育・保育アドバイザーと共に、園の解決や研修会運営のための情報共有をしていく。

3 令和2年度の実施状況<○成果 ●今後の課題 ◇改善の方策>

- (1) 「部局間連携による教育・保育推進体制の充実」
 - ・子育て支援課との定期的な打合せの機会の設定、連携による事業の推進
 - ・年度初めから打合せを行い、監査及び研修についてのお互いの事業の内容を確認し合った。また、その後も情報共有に努めている。
 - ・横手市幼小接続推進協議会を開催、令和元年度の課題を受け、方向性を協議
 - ・6月23日第1回横手市幼小接続協議会開催（協議委員8名事務局員7名参加）令和2年度接続の方向性について協議し、3点について確認した。今後2月16日に第2回協議会を開催し、今年度の成果と課題について協議する。

○年度初めに子育て支援課との打合せがあり、今年度の方向性が確認できた。

○横手市幼小接続推進協議会が核となり、接続を市全体で行っていこうという気運が高まった。

●接続の方向性は、各団体での取組になってきたが、団体相互の取組を導き出すところには至っていない。

◇今年度は小・保・認それぞれの組織の中での接続への取組が更に進められたので、来年度はこれをベースに、より具体的な連携による実施に進んでいきたい。



第1回横手市幼小接続推進協

- (2) 「教育保育アドバイザーによる園や保育者への充実した支援」
 - ・園への継続した訪問を続け、身近な相談者として力になり支え、保育力の向上を図る。
 - ・保育参観の大切さを各園に周知し、園内研修に関わる園を拡充する。

【令和2年度アドバイザーによる巡回訪問・指導実績（横手市）】

⑥訪問実績 計 57施設／全57施設 682回	
回数	<ul style="list-style-type: none"> ・幼稚園：私立4園（47回） ・保育園：公立5園（59回）、私立22園（311回） ・幼保連携型認定こども園：私立2園（27回） ・その他の施設：（へき地保育所 園（回）児童館 か所（回）、小規模保育施設 か所（回））、認可外保育施設5か所（35回）、事業所内保育施設2か所（23回） ・小学校：17校（180回）
訪問内容	<ul style="list-style-type: none"> ・園内研修支援（保育改善、テーマ別、研修方法、研修計画）（33園（59回）） ・公開保育支援（指導・助言、公開保育研究会の運営・準備）（0園（0回）） ・個別相談（保育者の面談及び指導等、園の課題解決対応等）（5園（99回）） ・状況把握（保育の状況観察、園長等への聞き取り調査）（34園（52回）） ・周知活動（広報紙等での取組経過の伝達、事業内容説明）（40園17校（505回）） ・県と同行（指導方法研修、園の課題共有、指導内容の明確化）（4園（4回）） ・幼小接続（幼小接続に関する調査及び事業等）（17校（68回））

・ほとんどの園から訪問の要請が来るようになり、複数回の要請がある園も増えてきている。

また、認可外、事業所内保育園にも広報紙を配付しつつ関係作りを進めている。

・研修体制を支援することにより、園内研修への意欲が高まっている。一方個々の保育士の悩み（特に保育が難しい子について）を聴くことができ、ニーズも増えてきている。

・要請のない園も若干あったので、こちらから参観等のお願いをした。また、自分たちで課題に取り組む研修体制ができていない園もあるので、アドバイザーと共に研修内容を考えていくような支援をしている。

○2名のアドバイザーがそれぞれの役割を明確にしなが、多様な園のニーズに応えた支援を行うことができた。また、継続的に訪問支援することで、保育者や園児の変容を追っていくことができた。

○定期的な訪問により、認可施設はもちろん、認可外施設への関係づくりも少しずつ構築されてきている。

●いくつかの施設には、こちらから訪問を依頼する形での実施となり、自主的な訪問支援が行える体制づくりをしていきたい。

◇保育参観や研修の前後にもアドバイザーが訪問していくことで、研修内容や指導計画について、より具体的なサポートを継続していく体制を整えていきたい。

(3) 「専門性の向上のための研修の充実」

- ・指導計画についての研修会：5月頃（中止）
- ・公開保育を通しての研修会：10月頃（中止）
- ・第1回横手市保育実践力向上研修会開催：12月21日

【会場】雄物川コミュニティセンター

【参加者】3、4歳児担任29名

【内容】幼小の接続の理解に基づく子どもの育ちや学びの見取りについて、講義及び演習を通して理解を深める。

☆参加者のアンケートから

- ・感染対策をとりながらのプチ演習があり、他の先生の意見や考えを知るきっかけとなり、とても良かった。さらに自分の保育への考えを深めることができた。



アソカ保育園園内研修
～アドバイザーもグループに入って～



会での演習の様子

- ・演習による具体的な例があったことで、子どもの姿が想像しやすく、10の姿に照らし合わせて考えることができ、大変勉強になった。
- ・市主催の研修会は、コロナ感染予防の観点から3回予定した内2回が中止となった。33園17校と施設数の多さもあり、市として一斉の研修会の開催は難しい状況であった。
- コロナ禍で1回のみで開催であったが、テーマと参加者を絞ったことにより、具体的で実践に結び付きやすい研修となった。
- 就学前施設数が多く、例年通り各施設の受講希望者を募る研修会の実施は難しかった。
- ◇来年度も大人数での研修会は厳しいと思われるので、テーマや年齢層など対象を絞った研修会を短時間で行えるように計画したい。
- ◇小学校区域内の施設同士や、同じ法人同士の合同研修会など、身近な研修会実施を進めていきたい。

(4) 「小学校教育との円滑な接続に向けた研修等の充実」

- ・幼小の教職員と一緒に学び合う研修会開催：10月頃(中止)
- ・幼小各施設の研究授業や要請訪問の情報を公開し、参加を推奨
- ・小学校、就学前施設のそれぞれの研修会に講師として参加し(市指導主事)、接続に向けての講話・演習等を行った。
(小：幼小連携委員会研修会8/3、1/26実施) (就：横手市保育士会保育研究委員会10/14、12/10実施)
- ・職員体験事業については、できる範囲でということをお願いしたが、半数以上の小学校区で実施された。(参加人数57名)
- ・互いの授業や保育の参観については、実施する施設が増えたが、研究協議への参加となると難しい面がある。
- 市の研修会として一堂に会してのものはできなかったが、各小学校区で研究授業、要請訪問に互いに訪れることを推奨することができた。
- 各団体が意欲的に研修会を開催し、そこに参加しながら接続に向けての取組を応援できた。
- 各小学校、就学前施設による取組の差は大分解消されてきたが、まだ若干見られる。
- ◇より互いの保育・教育の理解を深めるために、互いの参観時の視点を示したシートを活用できるよう、その製作を進めていきたい。
- ◇市保育協議会、市認定こども園協会との結び付きを更に強化し、研修会への協力を得る。



まずだ保育園園内研修への増田小学校職員参加

(5) 「県との連携体制の充実」

- ・教育・保育アドバイザー連絡協議会(全4回)参加
- ・就学前教育推進協議会(11/27)参加
- ・「市アドバイザーに学ぶ研修会」(12/3横手市横手幼児園にて実施、大館市・仙北市へのアドバイザー参加)
- ・新規採用者研修、5年経験者研修、中堅教諭等資質向上研修、園内研修リーダー養成講座などにも参加
- ・県教育庁南教育事務所総務・幼保推進班指導主事・幼保指導員と同行訪問し、園の課題解決や研修会運営のための情報共有を行った。
- 各種研修会や協議会への参加を通して、アドバイザーのスキルアップにつながり、県や他市町村の取組の情報交換をすることができた。
- 県指導主事等への同行訪問で各園の保育、子どもの理解への気付きが共有でき、共通理解が深まった。
- アドバイザーの結び付きはあるが、市町村の事業担当者同市の情報交換ができる場があるとよかった。
- ◇県や事業市と情報を交換し合い、これまでの体制を継続強化していきたい。

実施市の具体的取組（潟上市）

1 教育・保育の現状と課題

- (1) 各園の形態や地域性をいかした教育・保育に配慮し、質の向上につなげていく支援のあり方についての検討と指導体制の構築が必要である。
- (2) 市幼保小連携事業において情報交換と子ども同士の交流は年数回行われているが、就学に向けての具体的な取組みには差が見られる。
- (3) 就学前施設と小学校の職員双方の「小学校への円滑な接続」に対する共通理解が必要である。

2 令和2年度の目的、重点、実施内容

【目的】

市内施設の教育・保育の質の向上につなげるため、モデル園を核とした保育実践研究や公開保育研究会に加え全ての公立施設で公開保育を開催し、施設の種別や保育提供区域の枠を超え市全域で学び合う体制の構築を図る。

【重点】

モデル園を核とした公開保育研究会の実施を継続し、地域全体で学びあう体制を構築することで、市内全体の教育・保育の質の向上を図る。

【実施内容】

- (1) 部局間連携による教育・保育推進体制の充実
教育委員会幼児教育課へ幼児教育アドバイザーを配置。教育委員会学校教育課と連携し、円滑な就学に向けた事業を実施する。
- (2) 教育・保育アドバイザーによる園の支援
市内各就学前施設への巡回訪問と要請訪問による指導と保育者との個別面談による課題の把握と解決のための支援を行う。
- (3) 専門性の向上のための研修の充実
各施設の課題に対する研修と研修リーダーの育成、公開保育研究会を実施し広域的に学び合う体制を構築する。
- (4) 小学校教育との円滑な接続に向けた研修等の充実
各小学校区での相互職場体験、各校施設間の情報交換、合同研修会を実施する。
- (5) 県との連携体制の確保
県幼児教育推進協議会及びアドバイザー連絡協議会への参加と市幼児教育アドバイザー育成のための県指導主事及び県アドバイザーの訪問による指導の支援。

3 令和2年度の実施状況<○成果 ●今後の課題 ◇改善の方策>

(1) 「部局間連携による教育・保育推進体制の充実」

学校教育課指導主事と幼児教育課の連携体制による訪問指導及び研修会等事業を実施する。

①配慮が必要な児童に対する幼児通級教室（訪問指導5園）

- 発達に課題等をもつ児童に対し個別指導を行うことで、児童の安定した発達と就学に対する保護者の不安軽減を図るとともに、必要に応じ園担当者と情報交換を行い保育の改善につなげている。
- 個別の対応を通して、施設全体の保育内容や環境の改善につなげている。

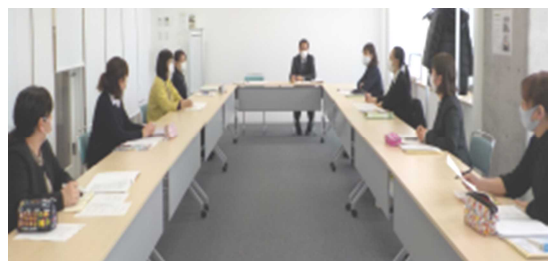
②円滑な就学のための意見交換会

開催日 令和3年1月15日

場 所 市役所会議室

参加者 学校教育課、幼児教育課、

幼児教育アドバイザー、市内就学前施設主任 計10名



安心して就学できるようにするための意見交換会の様子

- 各校から寄せられている声及び相互職場体験での小学校の指導の仕方や児童の姿を報告し合い、円滑な就学に向けて今後の園生活の在り方及び保育者の関わり方について見直すきっかけとなった。
- 各園における遊びの中での学びが、就学後はどのようにつながっているのか、また、学びの展開に対する保育者の関わりについて意見を交換したことで、来年度のカリキュラム作成の手立てとなった。

(2) 「教育保育アドバイザーによる園や保育者への充実した支援」

【令和2年度アドバイザーによる巡回訪問実績（潟上市）】

⑥訪問実績 計 14 施設／全 19 施設 149 回	
回数	<ul style="list-style-type: none"> ・幼稚園：公立1園（19回） ・保育所：公立3園（56回） ・幼保連携型認定こども園：公立3園（65回） ・幼稚園型認定こども園：私立1園（3回） ・その他の施設：（その他の施設：（認可外保育施設1か所（1回）、事業所内保育施設2か所（2回）、企業主導型保育所2か所（2回）、小規模保育施設2か所（2回）） ・小学校：0校（0回）
訪問内容	<ul style="list-style-type: none"> ・園内研修支援（保育改善、テーマ別、研修方法、研修計画）（目標のうち、7園（52回）） ・公開保育支援（指導・助言、公開保育研究会の運営・準備）（目標のうち、7園（13回）） ・個別相談（保育者の面談及び指導等、園の課題解決対応等）（目標のうち、7園（87回）） ・状況把握（保育の状況観察、園長等への聞き取り調査）（目標のうち、8園（12回）） ・周知活動（広報紙等での取組経過の伝達、事業内容説明）（目標のうち、13園（21回）） ・県と同行（指導方法研修、園の課題共有、指導内容の明確化）（目標のうち、8園（11回）） ・幼小接続（幼小接続に関する調査及び事業等）（目標のうち、1校（5回））
理由	令和元年度に基幹園として1園で公開保育研究会を実施したが、参加しやすい環境を整えるため、全ての市立施設において実施するものとして設定した。また、幼保小接続に係る市の事業への主体的な関わりを持つため全小学校及び全園で事業実施に訪問することとし設定した。

- 園内研修等では、課題の検証に主体的に向き合う参加者の姿が多く見られ、積極的な発言など研修の参加への意欲が高くなっている。
- 園訪問では、資格の有無にかかわらず、保育の振り返りや個々の保育に向かう姿勢、思いにふれることができた。その中で、一人一人のこどもを保育者が大切に思う関わりや抱えている不安などについて率直に意見を交換できたことが、保育者の自己肯定感に繋がっていき、保育者自身も子どもと一緒に育てていく一人であるという意識が変わってきていることを感じる。
- 短時間保育士や保育補助などの職員が園内研修に参加することにより、「子どもの姿」への気付きから「子どもの内面」の気付きへと変化していっているように感じる。園の特色をいかした”園全体で子どもを育てる”といった意識を育てていけるよう、関わりを続けた。
- 園によっては、園内研究に関われない職種もあり、アドバイザーの関わりにより保育に対する意識が変わってきているものの、研究内容をどう伝達し意識の統一を図っていくかが課題になっている。
- 園内研修では、子どもの読み取りについて話し合いを深めテーマや視点に迫るところまでたどり着くことの難しさが課題である。

(3) 「専門性の向上のための研修の充実」

- ・市内全公立施設での公開保育研究会による広域的に学び合う体制を構築し、市内全体の教育・保育の質の向上を図る。

①公開保育：7/21 出戸こども園(21人)、7/22 追分保育園（18人）、8/5 昭和こども園(16人)
9/14 二田保育園(14人)、11/10 湖岸保育園(17人)※（ ）内は、参加人数

②公開保育研究会

開催日 令和2年11月6日
公開保育 若竹幼児教育センター
研究協議 飯田川公民館
参加者 市内就学前施設職員12人、
行政8人 合計20人



若竹幼児教育センター公開保育研究会
研究協議の様子

○日頃、研修参加の機会が少ない保育者に対し、他施設の保育を参観することで様々な学びや気持ちに繋がるような公開保育を実施した。「保育者の関わり」や「環境構成」などについて、参加者からは「自身の保育や自園の保育を見直すよい機会となり明日の保育を考える手立てになった」という感想が多く寄せられた。各施設への訪問の際には、他施設の遊びや手作りおもちゃを紹介したりし、園相互の交流も勧めてきた。

●公開保育では、コロナ禍ということもあり様々な配慮が必要となったが、公開保育実施園の事情により時間や人数で制限を設ける必要があった。

◇コロナ禍にあってもより充実した研修にするため、保育参観後の協議の場を設け広域的に学び合いを共有できる機会を提供する。

③実践研究

安全に遊ぶための園児の体力向上事業 モデル園 昭和こども園

- ・人間工学の専門分野の教授による講話とカリキュラムの指導 2回（6/17、6/26）
- ・健康運動指導士による教育・保育環境の見直しへの助言
6回（6/19、8/31、9/29、11/30、12/21、1/29）
- ・事業の中間評価及び成果を園児の保護者へ発信 3回（9月、12月、3月）

○「未満児は、転倒による怪我が減少し体を動かして遊ぶことを楽しむ姿が増えた。以上児は、衝突や転倒による怪我を回避できるようになってきた。また、年下の子どもに優しく接する姿が見られるようになった。様々なことに挑戦したいという姿が多く見られる。」という声があり、10の姿の「心と体」が一緒に育っていることを感じられる。

○保育者は、安全に遊ぶために子どもの発達時期にあった用具や教材の活用を深く考えるようになった。

④保育実践研修会

「チーム力を高める保育実践のあり方について
～一人一人の保育者のよさをいかして～」

開催日 令和2年11月2日 2回実施
場所 市役所会議室
参加者 市内就学前施設全職種対象 30名参加



保育実践研修会の様子

○「自分の立場に迷いを持ちながら保育に関わっている」というみなし保育士及び短時間任用職員などの参加者からは、「チームとして互いを尊重し、連携することの大事さが分かった」という感想が寄せられた。

◇職種を超えて「チームで保育に関わる大切さ」を周知する機会を継続していく。

(4) 「小学校教育との円滑な接続に向けた研修等の充実」

①基幹園による公開保育研究会

若竹幼児教育センター 11/6 開催 接続する小学校から教諭2名参加

●学校側から公開保育への参加はあるが、その後の協議への参加には至らなかった。

◇小学校側と開催日時を検討し資料の事前配付を行うほか、管理職への参加を呼びかける。

②幼保小相互職場体験

天王小学校区(12/8、1/7)、出戸小学校区(9/24、10/13)、東湖小学校区(10/7、10/13)

追分小学校区(9/18、10/13)、大豊小学校区(9/29、10/12)、飯田川小学校区(10/12、11/13)

○各園の保育教諭は、小学校の授業に参加することで授業における教師の手立てや学級経営の工夫について理解を深めることができた。

また、小学校教諭は、園の教育及び保育に参加し環境設定や園児一人一人への細やかな気配り、豊かな活動や時間の保障などについて理解を深めることができ、お互いの連携推進につながっている。

◇来年度は、全学区の相互職場体験及び協議に幼児教育アドバイザーが加わり、より具体的な内容の共有を図ることで、円滑な接続に向けた教育保育内容の改善につなげる。

(5) 「県との連携体制の充実」

・就学前教育推進協議会、アドバイザー連絡協議会への参加及び県アドバイザーの訪問指導により市幼児教育アドバイザーの育成支援を図る。

・市就学前施設要請訪問の同行により県の指導内容を共通理解し、市アドバイザーによる訪問指導の充実を図る。

①園の要請訪問に同行

7/17 出戸こども園、7/22 追分保育園、8/5 昭和こども園、9/1 二田保育園、

10/8 若竹幼児教育センター、11/10 湖岸保育園、11/8 追分幼稚園

○市アドバイザーが、県幼保推進課による要請訪問の同行によりねらいに沿った視点の当て方を学び実践に生かすことを心がけている。

②県アドバイザーの支援訪問

訪問日 6/1、6/11、7/8、8/27、9/24、10/8、10/27、11/6、12/10、1/14

○県アドバイザーの同行訪問を通して保育者への関わり方や具体的なアドバイスの仕方を学ぶことが市アドバイザーの巡回訪問・指導を行う際のモチベーションアップにつながっている。

③市アドバイザーに学ぶ研修会

○他市のアドバイザーの関わり方を学び、また情報交換をすることによって、専門性の向上につながっていく良い機会となった。

●今年度は、新型コロナウイルスの影響もあり、参加回数・参加人数が制限されたため次年度に期待したい。

実施市の具体的取組(仙北市)

1 教育・保育の現状と課題

(1) 臨時(保育補助)としての期間が長かった職員や、有資格ながら長年他業務についていて人事異動で初めて保育現場に来た職員もおり、各年齢層での経験にばらつきがある。若手への指導に自信が持てずいたり、子どもの内面を読み取ることや、指導案の書き方に悩んでいたりする保育者がいる。中堅保育者の育成、保育者の質の向上に向けて、園内研修の充実が課題である。

(2) 市内各園では、園児、児童の交流や双方での保育、授業を参観することも年間計画を作成し取り組んでいる。しかし、参観についての振り返りの協議参加やスタートカリキュラムの作成等、園と隣接している小学校区によって取り組みの状況に差がある。幼小の円滑な接続を考えた時、教育委員会と連携した相互理解のための体制作りが課題である。

2 令和2年度の目的、重点、実施状況

【目的】

県と連携した教育・保育アドバイザーの育成、就学前施設への事業内容周知及び教育・保育アドバイザーによる園研修の支援、保育士に対する研修を実施する。

園と教育・保育アドバイザーの信頼関係の構築に重点を置きながら、教育・保育アドバイザーの活用状況を評価・分析し、以降の教育・保育アドバイザーの効果的な活用方法について検討を重ねる。

また、当市の教育理念「未来に向けた人材育成するための教育」を目標とした「幼児教育と小学校教育の円滑な接続」を推進し、子どもの育ちと学びの相互理解を基盤とした取組の充実を図る。

【重点】

経験年数を見据えた研修会や、保育者の専門性を磨く研修を提供しながら、保育の改善と向上を目指す。

【実施内容】

- (1) 部局間連携による教育・保育推進体制の充実（幼小接続の連携体制の強化）
 - ・教育総務課（小学校教育指導担当課）と子育て推進課（就学前教育保育担当課）との連携体の構築
- (2) 教育・保育アドバイザーによる園の支援（園内研修、保育実践）
 - ・子育て推進課に教育・保育アドバイザーを配置し、定期的な就学前施設訪問による園内研修支援
- (3) 職員の専門性の向上のための研修の充実と地域で学び合う体制づくり
 - ・就学前施設の課題に応じた研修会や公開保育研究会の実施
- (4) 小学校教育への円滑な接続に向けた研修（取組）の充実
 - ・幼小連携に関する研修会、教職員の体験事業の実施、幼保小自主事業の支援
- (5) 県との連携体制を活用した教育・保育アドバイザーの育成
 - ・県の就学前教育推進協議会、アドバイザー連絡協議会へ参加
 - ・南教育事務所指導主事や県教育・保育アドバイザーと情報共有

3 令和2年度の実施状況<○成果 ●今後の課題 ◇改善の方策>

(1) 「部局間連携による教育・保育推進体制の充実」

部局間連携による教育・保育推進体制の充実（幼小接続の連携体制の強化）

- ・教育委員会と子育て推進課との連携体制の構築
- ・教育委員学校訪問に学区内保育施設の園長も同行できるように調整を図る

□教育委員会学校訪問に同行する。

7月2日（木）	西明寺小学校	教育委員・副園長2名・アドバイザー
	榎木内小学校	教育委員・副園長2名・アドバイザー
7月3日（金）	神代小学校	教育委員・副園長1名
7月8日（水）	白岩小学校	教育委員・園長1名
	角館小学校	教育委員・園長3名

〈園長からの感想〉

- ・全学年の授業参観ができ、子ども達の成長を感じることができた。また、時代の流れで変わってきている授業内容にふれることができ、小学校への円滑な接続を考えさせられる有意義な時間になった。
- 昨年は、アドバイザーのみの同行であったが、コロナ渦の状況にも関わらず、小学校区の園長も一緒に同行できたことは、大きな成果であった。担当の教育委員会から小学校へ、アドバイザー及び認定こども園・保育園長の同行と、資料の準備、当日の対応等について依頼してくれたことにより、園長達の参加がよりスムーズにできたと思われる。
- 学校訪問には、認定こども園訪問も含まれていたがコロナ感染症拡大防止対策として、今回は中止となり相互の参観ができず残念であった。
- ◇訪問の中で教育委員から小学校への指導や感想を述べる時間があるが、園と小学校の連携を考えた時に園にも伝えていくことで、より一層の理解に結び付いていくと思われる。どのように取り入れていくかは部局間でも大きな課題になると思われる。市全体で理解を深めていく体制を考えたい。
- ◇幼小の連携の持ち方や考え方に、隣接する園と小学校で温度差が感じられる学区もある。幼児教育と小学校教育の接続を図るためにも、研修会を通して発達や学びが連続していくことを共有できる機会を工夫していきたい。
- ◇幼小接続の連携体制強化のため、教育委員会との連携を一層図っていく。

(2) 「教育保育アドバイザーによる園や保育者への充実した支援」

教育・保育アドバイザーによる園の支援（園内研修、保育実践）

- ・定期的な訪問を計画し、園のニーズや保育者一人一人の課題を明確にすることで、要望に沿った支援を継続実施
- ・園内研修の進め方や取り組みの課題等、研修へのプロセスに関わり園内研修の充実を図る支援の実施
- ・指導主事等の連携体制を継続させ、保育実践の一層の発展を図る

【令和2年度アドバイザーによる巡回訪問実績（仙北市）】

⑥訪問実績 計17施設／全17施設 282回	
回数	・保育園：公立 3園 (98回) ・幼保連携型認定こども園：公立 1園 私立 4園 (166回) ・その他の施設：（事業所内保育施設2か所（0回）、家庭的保育施設1か所（2回）） ・小学校：6校 (16回)
訪問内容	・園内研修支援（保育改善、テーマ別、研修方法、研修計画）（目標のうち、8園（40回）） ・公開保育支援（指導・助言、公開保育研究会の運営・準備）（目標のうち、8園（21回）） ・個別相談（保育者の面談及び指導等、園の課題解決対応等）（目標のうち、8園（98回）） ・状況把握（保育の状況観察、園長等への聞き取り調査）（目標のうち、8園（62回）） ・周知活動（広報紙等での取組経過の伝達、事業内容説明）（目標のうち、11園（49回）） ・県と同行（指導方法研修、園の課題共有、指導内容の明確化）（目標のうち、8園（7回）） ・幼小接続（幼小接続に関する調査及び事業等）（目標のうち、6校（26回））
設定理由	・各園月1回以上訪問指導し、継続した支援を通し保育の質の向上に努める。 ・周知活動では、アドバイザーの活用法を例示しながら、アドバイザーの活用範囲を広げていく。 ・園の実態把握に努め、保育者の課題を見出しながら、園内研修へのプロセスに係ることで、研修の充実を図る。

- ①周知説明のため、アドバイザーの役割、仙北市の研修計画、指導主事訪問の日程等を紙面に記載し各園に配布し様々な場面でアドバイザーの活用方法を周知する。
- アドバイザーの役割等を訪問時に説明したり、紙面で示したりすることで、昨年度より園内研修の事前の相談、指導案を通した保育の振り返り等の活用が多くなったと思われる。

また、アドバイザーは、個別に相談したり、悩みを聞いてくれたりする存在であるという認識も少しずつ広がっている。

- 個別相談を受けたことに対しては、訪問時に、より丁寧に接することを心がけている。その後の確認をしたり、声をかけたりすることで保育者自身が前向きに取り組む姿勢につながっている。
- アドバイザーに個別に相談できるとわかっていても、保育の実践の悩みや人間関係に関すること等では、どのタイミングでアドバイザーに声をかけたらいいのか、連絡することが難しいと感じている保育者や保育補助の立場の人もいることを実感した。
- 保育者が個別に対応した時に、悩みや課題も違うので、いろいろな保育者に対して継続できる支援の方法が難しいと感じる時がある。
- ◇個別の悩みを聞いてほしいという時のアドバイザーへの連絡の仕方等、考慮していく必要があると感じる。

②園内研修：今年度の取り組みとして、園内研修のプロセスに関わることで、保育者の意識を向上させていくことを目標のひとつにしている。

- 園内研修の持ち方や進め方について、どのようにしたらいいのか研修に取り組む意識が高まっている。そのことから、アドバイザーも当日だけの参加でなく、事前の進め方や方法について話し合いの場に参加できることが多くなった。また、研修後に進め方の振り返りを聞くことができ、次の研修へつながるような手立てが考えられている。
- 園内研修は各園とも保育者の年齢や経験に捉われず、いろいろな意見を出し合える体制を大事にしている。そのため、保育者達からの意見がたくさん出たことを良しとする園が多い。エピソード記録や子どもの姿を語る話し合いが、園の重点課題や研究に結び付いた全体のものとして捉えられていない面が見える。
- 園内研修で課題を探り、課題解決に向けた話し合いというより、次の日の活動や環境の構成に話が進みがちである。保育の中での子どもの姿の読み取りから、今、育ちつつある姿、何を経験しているか等、保育者の読み取りが課題にもなる。
- ◇研修の方法の紹介、保育者の演習の仕方等いろいろな方法の情報提供をする中で、何を視点に話し合うかを明確にするような助言を心がけていく。
- ◇同じ方法で進めることに疑問を持たずにいる保育者も多く、どんなことを視点に話合うということを意識させながら、いろいろな方法での研修も検討できるようにしていく。

(3) 「専門性の向上のための研修の充実」

職員の専門性の向上のための研修の充実と地域で学び合う体制づくり

- ・園内研修の充実と保育者のキャリアステージに応じた市独自の研修を実施
 - キャリア別研修会（保育補助） 2回 4月
 - キャリア別研修会（若手保育士） 5月
 - キャリア別研修会（若手保育士） 8月
- ・保育補助研修、新規採用研修、ミドル職員研修、ファシリテーター研修等を新た実施
 - ファシリテーター研修① 5月 3回の研修で終了
 - ファシリテーター研修② 6月
 - ファシリテーター研修③ 7月
- ・地域で学び合う公開保育研究会の実施
 - 公開保育研究会（市内各園、各小学校から参加）神代こども園で開催 10月

今年度、上記のように研修会開催を予定していたが、コロナ感染者症拡大防止対策として、計画していた研修が行えず、指導主事・講師等と研修日程の調整変更を行い実施した。

□9月17日(木) 新規採用保育者研修会(参加者7名)

講師 秋田県教育庁南教育事務所 幼保指導員 伊藤 トシ子 氏

<参加者の感想>

- ・アンケートで書いた「自信をもてないことについて」答えていただけて本当に嬉しかったです。自信がないから「勉強する」「子どもをよく見る」「保護者の話をよく聞く」ずっと心に留め精進していきたいと思う。
- ・(日々勉強)という言葉をお大切にしていかなければならないと感じる講話であった。子どもにとって保育者とはどんな存在か問われた時、ドキッとしました。最近の自分は生活の流れを考えるのに必死で、子ども達一人一人を見ていたのか考えさせられました。子どもは「愛されることで変わる」という言葉を忘れずに、子どもを見る視点を考えて関わっていきいたいと思った。

□10月6日(火)

実技研修会(参加者20名)

講師 学校法人聖園学園 聖園学園短期大学

教授 内藤 裕子 氏

<参加者の感想>

- ・特別な準備がなくても、すぐ実践できる遊びをたくさん学ぶことができた。楽しく笑いながら体を動かす中で様々な体の動きを経験できることを学んだ。
- いろいろな工夫をして、子ども達と楽しく保育を進めていきいたいと思った。



笑顔いっぱいの実技研修会の様子

□10月7日(水)

子育て支援の推進(参加者24名)

講師 学校法人聖園学園 聖園学園短期大学

准教授 蛭田 一美 氏

<参加者の感想>

- ・子育てをほめるとは、保護者の生き方をほめているのと同じこと、子どもをほめるイコール子育てをほめるという言葉が印象に残った。子どもや保護者の良い所を見つけ、一緒に成長を喜び合い自分自身もスキルを高めていきたい。
- ・蛭田先生が話してくださったエピソードに、今自分が悩んでいることと重なることがあり、保護者を大切に思う気持ち、あきらめない気持ちを持って丁寧に対応していきたいと思った。



子育て支援研修会の様子

□10月13日(火) ファシリテーター研修会(参加者8名)

講師 秋田県教育庁南教育事務所 主任指導主事 斉藤 丈彦 氏

<参加者の感想>

- ・神代こども園公開研究協議会に向かって、ファシリテーター研修会の開催に感謝している。視点に沿った進め方が大事であり、参加者の話を引き出す大切さや記録のまとめ方を学ぶことができとても有意義だった。研修に向かって進行・記録の役割分担で自分達なりにがんばっていきいたい。
- 講師からの資料提供が研修を進める上で大きな強みとなり、意欲的に向かおうとする意識が高まった。

□10月22日（木）副園長等研修会（参加者13名）

講師 仙北市子育て推進課 特別支援相談員 相澤 克彦 氏

<参加者の感想>

- ・校長、教頭、教務の経験からの講話に気づかされること、勉強になったこと、共感したことがたくさんあった。講師の「すべてが勉強になった」という言葉が響いた。色々なことには必ず意味があり、今後の自分につながる大切な経験であると確信することができた。自分も今、勉強させてもらっていることに感謝し、前向きに取り組んでいきたい。
- ・副園長としての役割を具体的に学ぶとともに、子ども・保護者・職員・全てのつながりにおいて信頼関係の構築がいかに重要であるかを痛感させられた研修会であった。

□11月25日（水）保育補助研修会（参加者19名）

「子どものよりよい生活のために」

講師 秋田県教育庁南教育事務所 幼保指導員 伊藤 トシ子 氏

<参加者の感想>

- ・講話が心に響き、子ども達への自分の対応に反省した。「ダメ」という言葉が一番に出て「なぜ、ダメなのか」ダメな事を気づかせる言葉かけをする大切さを知った。未来ある子ども達へ自分の思いだけでなく、一人一人の気持ちや行動を理解して受け止めるための勉強を日々していかなければならないと思った。
- ・補助のための研修会はほとんどなく、今回の研修で改めて補助の役割を学ぶことができた。園内研修に参加する際も以前より、言葉の意味が理解できるのではと感じた。
- ・子どもの人数が少なくなり、補助の業務もその年で変わることがある。補助の仕方に保育者との関係に悩むこともあるが、保育はチームワークで行うことを心がけてがんばりたい。

□12月1日（火）保育補助研修会（参加者13名）

「子どものよりよい生活のために」

講師 秋田県教育庁南教育事務所 幼保指導員 伊藤 トシ子 氏

<参加者の感想>

- ・普段わかっているようで、今更聞けない仕組みや内容などわかりやすい事例とともに保育の場面に照らし合わせながら聞くことができた。
「○○ちゃんのこと大好きだけど、△△するのは嫌だな」というフレーズを明日から思いを込めて伝えていけたらと思った。流れていくような日々の保育を改めて見直す良い機会となった。
- ・今回の研修で一番印象に残ったのが、子どもへの援助の仕方である。
陥りやすい援助の仕方「必要以上のサポート」でその子と行動を共にしてしまう。目を離さないようにと思うあまり行き過ぎた援助をしていないか、その子の見えている行動だけで決めつけていないか自分の援助の仕方を振り返る良い機会になった。
- 保育補助の研修会を初めて開催できたことで、多様な考え方や子どもの理解にふれ、保育補助としての役割や考え方を深めることができたように思う。
- ◇保育補助としての困り感や悩みになかなかふれることができずにいたが、チーム保育を考えるうえで、保育補助の課題を明確にしなが研修開催を工夫していく必要性を感じる。

□1月19日（火）ファシリテーター研修会③

「組織的・計画的な研究推進に向けて」

～研究計画の作成と進め方について～

講師 秋田県教育庁南教育事務所 主任指導主事 斉藤 丈彦 氏

<参加者の感想>

- ・今年度園内研修のリーダーになり、研修計画を作成する際、どのように作成すれば良いか悩んだが、今回の研修を受講して研修計画に盛り込む内容を詳しく学ぶことができた。来年度、研修計画を立てる時にポイントを押さえながら作成したい。
- ・研究を続けていく必要性を感じた。計画作成を難しく考えていたが具体的な計画があることで、迷った時いつでも立ち返って確認し、また向かっていけるのだと思った。
- ファシリテーター研修会の開催を望む声が多かったので、1回でも開催できたことは保育者にとって有意義な研修になった。
話し合いのポイントを絞ることや研修の組み立て方が重要とわかっているが、どのように進めていくべきか、悩む声が多かった。講師の資料に対して、園の計画を実際に照らし合わせて、読み解いていくことで不足していた部分が見えたり、重要なことと捉えていなかった部分が見えたりしたことから、研修の進め方の大事なことを学ぶことができたという感想を聞くことができた。
- 園内研修を進めることに負担を感じている保育者もいたが、講話を聞いていろいろな方法で実践してみたい、また来年度も研修委員として計画を考えていきたいという保育者もあり、前向きな姿勢が感じられた。
- ◇園では保育者の研修参加を計画的に立てているが、保育者にとっては、やらされ感を持つことも否めない。保育者自身の意欲につながっていくような研修を企画していく。

■仙北市保育研修会

- 仙北市では、初の試みで令和2年度の研修をキャリアアップ研修に申請することができた。コロナ関連でほとんどの研修が中止されていたことから、キャリアアップ研修を仙北市内で受けることができるという期待が高まった。
- 昨年の研修会のアンケートから、保育者が希望する研修を念頭に置き計画したが、キャリアアップ研修に申請したことで、なかなか受講できない実技研修や保護者支援等の研修が好評であった。また、研修前に受講者から悩みや課題を事前に提出してもらい講師の資料にしてもらったことで、研修がより具体的になったと思われる。
- 研修を行うために、新型コロナウイルス感染症拡大防止のために消毒、換気、ソーシャルデスタンス等の注意を払いながら進めているが、受講者の中には不安であるという少数意見もあり、このコロナ関連の中での研修の持ち方は課題である。

(4) 「小学校教育との円滑な接続に向けた研修等の充実」

- 小学校との接続課題解決に向けた合同研修会の開催
 - ・西明寺小学校授業参観・午後振り返り 令和2年7月27日(月)・7月28日(火)
(にこにここども園5歳児担任・アドバイザー参加)
 - ・角館小学校、角館地区こども園、保育園連絡協議会
(角館小学校職員、角館こども園、白岩小百合保育園、中川保育園、アドバイザー参加)
 - ・西明寺小学校授業研究協議会(1年国語) 令和2年10月1日(木)
(にこにここども園5歳児担任・アドバイザー参加)
- 幼小連携に関する研修会、教職員の体験事業の実施を支援
- 幼保連携型認定こども園 神代こども園公開研究協議会：10月16日(金)
(参加者 小学校7名、園・教育関係者48名)
講師：秋田県教育庁南教育事務所 主任指導主事 斉藤 丈彦 氏

<参加者の感想>

- ・子どもの興味・関心に想いを寄せて保育をすることの大切はもちろんのこと、各年齢の発達段階を踏まえた上で専門性をもって保育にあたることで教育につながることを実感した。指導計画は遊び始める姿、試行錯誤、成功やトラブルの過程を踏まえることでより明確な環境の構成や援助につながる、パワーバランスや遊びのボリューム感も考慮すべきということを学んだ。
- ・小学校に配慮してほしいことという講話から、園での学びが小学校で生かされていることを改めて実感し、しっかり発達に合わせて関わっていかねばと身が引き締まる思いがした。
- ・グループ協議の中で、小学校の先生達から、意見を聞くことができとても参考になった。



KJ法での話し合い(↑写真)や協議後の共有場面での発表の様子(↓写真)

<小学校：参加者の声>

- ・小学校としては、スタートカリキュラムにつながる子どもの具体的な姿を見取ることができたことが成果です。この後も機会をつくって、参観を通して実質的なものにしていけたらと思います。
- ・園も小学校も中学校もめざすところは同じだということ改めて実感しました。遊びを通して子ども達は様々な能力を身につけているしその能力は小・中の学習の基礎となる力だと思います。このような力をつけて小学校に入学してきているということを小学校の教員も共通理解しておくことがいかに大事ということを切実に感じた。
- 公開研究協議会に向かう中で、公開園では日々実践したことを改めて職員間で振り返りをする等、中間評価ができ保育に取り組む気持ちや研究会に向かう意識が高まった。
- 保育参観、協議を通して子ども達の学びの連続性について共通理解をもつことができた。
- 園・小学校の接続は大事なことと双方で思っているが、小学校の勤務形態が違うためか協議まではなかなか参加できずにいるので研修の時期や学校との研究時間の確保も課題と捉える。
- ◇子どもの理解や遊びの内容という視点で保育を参観し、語るができる保育者の育成とともに自分の保育をどのように振り返ることが大事なことであるかを意識づけるようなアドバイスに努めたい。
- ◇クラスを担当している先生達の参加がもっと増え、意見交換ができれば有意義な研修になると思われる。研修の時期や学校との研修時間の確保も課題と捉え改善策に努めたい。



(5) 「県との連携体制の充実」

- ・県の就学前教育推進協議会、アドバイザー連絡協議会へ参加し、専門的な知識を蓄積
- ・県所管研修で得た情報や資料を使い、園や保育者の支援に活用
- ・南教育事務所指導主事や県教育・保育アドバイザーによる育成支援の活用、他市アドバイザーとの相互研修、情報共有により専門性の向上を図った。
- 認定こども園、要請訪問に同行し、保育の振り返りの仕方や要点を押さえた指導助言を学ぶことができた。特に保育の振り返りについては、「～できた」という結果ではなく、子どもの育ち、自分の関わりのポイントを学ぶことができ、保育者が自分の保育を指導計画と合わせながら考えようとする意識が高くなっている。継続して支援をしていきたい。

○仙北市の課題を意識しながら、アドバイザーの業務に携わっているが瞬時の判断に悩むことや、アドバイスの仕方に悩むことがある。自分の関わりを実際にみてもらい、助言をしてもらうことで、別の視点から考えることができたり、情報を共有することができたり、アドバイザーの役割を意識できることは、有意義な時間を感じる。

□令和2年11月20日（金）仙北市のアドバイザーに学ぶ研修会
はなさき仙北 幼保連携型にこにこども園

□令和2年12月3日（木）横手市のアドバイザーに学ぶ研修会
社会福祉法人山崎福祉会 横手幼稚園

○アドバイザーのいろいろなやり方を参観することで、自分の振り返りができることが大きな学びにつながることに実感できる。

□他市アドバイザーとの相互研修

令和2年12月21日（月）横手市保育研修会

「幼小の接続を見通した子どもの育ち・学びの見取りについて

～「幼児期の終わりまでに育ってほしい姿」を視点とした保育実践のポイント～

講師 秋田県教育庁南教育事務所 指導主事 石山 潤 氏

○他市で行う研修に参加することで、各園に情報を提供できる良さがある。

また、他市で捉えている課題を学ぶことが当市の課題を考える手立てに有効となっている。

実施市の具体的取組（大仙市）

1 教育・保育の現状と課題

- （1）園、小学校互いの見方、捉え方、子どもの育ちへの理解に相違がある。
- （2）小学校入学後の生活、学習に適応できないケースが見られる。
- （3）幼小の交流活動、参観は行われているが、その後の協議や情報交換等の機会が少なく、幼児教育から学校教育への接続を意識した環境づくりが必要。

2 令和2年度の目的、重点、実施状況

【目的】

教育保育アドバイザーを配置し、市内の教育・保育施設及び小学校への事業の周知をはじめ、園訪問、園内研修等への支援をおこない、各小学校区の連携活動の状況、課題を把握し、相互参観や協議を勧め、幼小の円滑な接続の意識に繋げていく。

【重点】

- ・市教育委員会と連携し、市内の教育・保育施設及び小学校へ事業周知を図る。
- ・県の事業、事業実施市の研修会に参加し、教育・保育アドバイザーの資質向上を図る。
- ・園訪問を実施し、園の課題把握、解決に向けた支援をおこなう。
- ・幼小連携活動のアンケートを実施し、幼小の課題や状況を把握する。

【実施内容】

- （1）部局間連携による教育・保育推進体制の充実
 - ・教育・保育アドバイザーを子ども支援課に2名配置する。
 - ・県主催の連絡協議会、研修会、事業実施市の研修会に参加し、アドバイザーのスキルを磨く。
 - ・就学前教育にかかる当課及び教育指導課と情報伝達を通じ、連携を強化していく。
- （2）教育・保育アドバイザーによる園の支援
 - ・定期訪問ほか単発派遣の活用を促し、継続的に園を支援。
 - ・園内研修に必要な指導、助言をおこない、保育士の資質向上を図る。

(3) 専門性の向上のための研修の充実

- ・ 県要請訪問の機会を通じ、近隣施設間で保育参観、協議への参加や公開保育協議会に向けた地域で学び合う体制を構築する。
- ・ 園の課題やニーズに即した研修会、講演会を実施し、保育の専門性を高める。

(4) 小学校教育との円滑な接続に向けた研修等の充実

- ・ 各小学校区の授業参観及び協議への参加を勧める。
- ・ 公開保育研究協議会への参加を促し、幼児教育から学校教育への繋がり の理解を深める。
- ・ 子の育ちや学びの連続性を意識した研修会を実施する。

(5) 県との連携体制の確保

- ・ 県主催の協議会、研修会へ積極的に参加する。
- ・ 県指導主事と連携し、本事業を円滑に進める。

3 令和2年度の実施状況<○成果 ●今後の課題 ◇改善の方策>

(1) 「部局間連携による教育・保育推進体制の充実」

- ・ 教育・保育アドバイザーを子ども支援課に2名配置。(うち1名市費)
- ・ 教育保育アドバイザーの役割、事業周知をおこなう。
- ・ 教育委員会との事業打ち合わせ、協議。

○保育士等が、より良い教育・保育の在り方についての意識が高まってきている。

○教育に精通した教育・保育アドバイザーの配置により、教育指導課との連絡や小学校へのアプローチがしやすい。

●幼小の相互理解を更に深めるため、市教育指導課との連携強化が必要。

◇定期的に市教育委員会と打ち合わせの場をもち、事業の進捗状況の報告や幼小連携の在り方について互いに検討、確認しあい、情報共有を図る。

(2) 「教育保育アドバイザーによる園や保育者への充実した支援」

□園訪問(園の課題把握、課題に向けた支援)市内全教育保育26施設訪問

- ・ 定期訪問(前期5月～6月、後期12月～1月) ・ 単発派遣訪問

①西仙あおぞらこども園(男性保育会)

内 容: 園内研修について(4歳児の保育参観、保育の振り返り、協議)

日 時: 令和2年8月27日(木) 午前9時30分～午後3時30分 参加6名

②おおたわんぱくランド(男性保育会)

内 容: 園内研修について(4歳児の保育参観、保育の振り返り、協議)

日 時: 令和2年10月6日(火) 午前9時30分～午後3時 参加6名

③角間川保育園

内 容: 園内研修、保育内容、保育の資質向上について(2歳児の保育参観、研究協議)

日 時: 令和2年10月19日(月) 午前9時30分～午後4時00分 参加11名

④大曲乳児保育園

内 容: 指導計画、保育の内容、園内研修について(1歳児の指導計画と保育の内容)

日 時: 令和2年11月4日(水) 午前9時30分～午前12時00分 参加3名

⑤藤木保育園

内 容: 園長等からの相談、課題に対する情報提供(園長、園長補佐からの聞き取り)

日 時: 令和2年11月9日(月) 午前10時30分～午前12時00分 参加3名

⑥内小友保育園

内 容: 指導計画、保育の内容、園内研修について(5歳児の指導計画と保育の内容)

日 時: 令和2年11月24日(火) 午前9時30分～午前12時00分 参加3名

⑦大曲北保育園

内 容: 園内研修、保育内容、保育の資質向上について(5歳児の保育参観、研究協議)

日 時: 令和2年11月30日(月) 午前9時30分～午後4時00分 参加11名

⑧内小友保育園

内 容：保育の内容、園内研修について（5歳児の保育参観、保育の振り返り、協議）

日 時：令和2年12月1日（火） 午前9時30分～午前12時00分 参加12名

○教育・保育アドバイザーの活動が周知され、気軽に相談してくれるようになった。

○各園の教育・保育目標や取組が把握でき、園の課題に向けた支援ができつつある。

●事業の計画がずれ込み、前期訪問は外部接触を控え、園長への聞き取りのみとしたため、保育内容の把握、情報共有が不十分だった。

●園数が多く、保育士一人一人により添ったアドバイスは難しい。

◇コロナ禍であることをふまえ、園訪問は計画に余裕をもたせ、園内研修や保育参観の機会に談できる時間をもつ。

□園内研修

・市内10施設：四ツ屋こども園、大曲中央こども園、おおたわんぱくランド、すくすくだけっこ園、日の出ベビー保育園、大曲南保育園、協和まほろぼこども園、大曲駅前こども園、大川西根保育園、大曲東保育園

○保育士自らの「育てたい力」について再確認できるようなアドバイスを行うことで、保育力向上の意欲が高まってきている。

○ワークショップ型の協議が園に定着しつつあり、保育士が活発な意見を出し合えるようになってきた。

●ファシリテーターや効果的な協議の進め方ができるよう、より教育保育アドバイザーの支援が必要。

◇園内研修の年間計画を把握し、協議がよりよく進められるよう支援をしていく。

【令和2年度アドバイザーによる巡回訪問実績（大仙市）】

⑥訪問実績 計 48施設 / 全 48 施設 117回	
回数	<ul style="list-style-type: none"> ・幼稚園：私立 園（ 回） ・保育園：公立 園（ 回）、私立13園（38回） ・幼保連携型認定こども園：私立10園（36回） ・その他の施設：小規模保育施設1か所（2回）、認可外保育施設1か所（3回） 事業所内保育施設 1か所（3回） ・小学校：21校（35回）
訪問内容	<ul style="list-style-type: none"> ・園内研修支援（保育改善、テーマ別、研修方法、研修計画）（目標のうち、13園（14回）） ・公開保育支援（指導・助言、公開保育研究会の運営・準備）（目標のうち、0園（0回）） ・個別相談（保育者の面談及び指導等、園の課題解決対応等）（目標のうち、1園（1回）） ・状況把握（保育の状況観察、園長等への聞き取り調査）（目標のうち、27園（78回）） ・周知活動（広報紙等での取組経過の伝達、事業内容説明）（目標のうち、27園（27回）） （目標のうち、21校（21回）） ・県と同行（指導方法研修、園の課題共有、指導内容の明確化）（目標のうち、21園（21回）） ・幼小接続（幼小接続に関する調査及び事業等）（目標のうち、14園（14回）） （目標のうち、15校（15回））
成果課題	<p>（成果）教育・保育アドバイザーの役割をパンフレットにし、当該年度の事業計画と併せて、市内の全小学校及び教育施設へ周知ができたことにより、教育保育アドバイザーの認知度が高まり、事業に対する理解が深まった。また、幼小接続に関するアンケートにより、各小学校区での連携活動の状況把握ができ、幼小連携だより等を通じて、幼と小の相互理解が深められつつある。</p> <p>（課題）園内研修を充実させるため、保育士の意識改革を図り、保育士に寄り添った支援がより一層必要となる</p>

(3)「専門性の向上のための研修の充実」

□保育士が互いの保育を見合い、地域でともに学び合う。

・県の指導主事要請訪問の機会を通じ、各施設の近隣教育保育施設職員2～3名を配置し、保育参観や協議をおこない、子どもの発達に応じた援助の在り方をともに考える。

【要請訪問実施】

保育園：10 施設 認定こども園：10 施設 事業所内保育施設：1 施設

- 他園の保育を見合い、ともに保育の在り方や環境構成等について学び合うことができた。
- 保育参観、協議を通じ、保育士の研修意欲が高まってきている。
- 近隣施設間を意識して配置したが、年齢毎の研修を更に充実させていきたい。
- 県指導主事要請訪問の機会に得た地域で学び合う体制づくりを今後どう定着させていくか。
- ◇年齢別やキャリア別に応じ、どの施設への研修を希望するかアンケートを取り、保育士等が率先して研修できる体制づくりを支援する
- ◇地域で学び合う体制づくりの基盤を固め、要請訪問以外でも園同士での学び合いの場がつけられるよう働きかけていく。

□保育士の資質向上のための研修「大仙市保育実践力向上研修会」を実施。

- ・日常の保育に必要な指導計画の作成の仕方（乳児保育の発達理解、幼児教育の発達理解）について学ぶため、3歳未満児、以上児に分けておこなう。

【対象】市内の教育保育施設職員

研修Ⅰ

内 容：「指導計画作成のポイント 3歳未満児」

日 時：令和2年10月22日（木）午後1時30分～午後3時50分

講 師：秋田県庁南教育事務所幼保指導員 伊藤 トシ子 氏 参加24名

研修Ⅱ

内 容：「指導計画の作成のポイント 3歳以上児」

日 時：令和2年10月23日（金）午後1時30分～午後3時50分

講 師：秋田県庁南教育事務所指導主事 石山 潤 氏 参加20名

※保育キャリアアップ研修対象（受講2時間）、参加レポートの提出、研修会アンケート実施

- 自身が作成した指導案を用いて学ぶことにより、指導計画の見直しが図られ、改善すべき点により明確になった。
- 具体的な事例やポイントをおさえた指導、互いの指導計画を見合う経験から、指導計画の作成についてより理解が深まった。
- 保育実践力向上力研修会は、開催日時の延期や人数を制限しての実施となり、園での伝達に不安を感じていた参加者がいたため、研修内容を園内で共有に伝達し、研修の成果が発揮できるような関わりが必要である。
- テーマの内容は、保育士の関心が高く、研修時間がもっとほしかったとの意見もあり、今後の研修ニーズ、参加可能な時期、時間の確保を工夫する。
- ◇ミドルリーダーの育成の必要であるため、指導する力をつける研修の計画をたてる。
- ◇研修会で学んだことを園で実践していけるよう、支援していく。

(4) 「小学校教育との円滑な接続に向けた研修等の充実」

□市内小学校（21校）へ事業周知のため、訪問。

- ・各小学校区で行われている連携活動等の情報を収集。（連携活動、年間行事等）
- ・幼保小連携についてアンケートを実施。連携に対する課題、要望を取りまとめる。

□各小学校区の教育・保育職員、小学校職員とともに授業参観及び情報交換、協議をおこない、園と小の相互理解を深めていく。

・大曲小学校

内 容：1年生の授業参観

日 時：令和2年5月27日（水）午前9時30分～午前10時15分 授業参観

参 加：教育保育職員関係者11名

・大川西根小学校

内 容：1年生の授業参観（生活科）及び協議

日 時：令和2年6月25日（木）午前9時25分～午前10時10分 授業参観
午後2時50分～午後3時50分 協議

参 加：教育保育職員関係者4名

・南外小学校

内 容：1年生の授業参観及び協議

日 時：令和2年10月21日（水）午前10時20分～午前11時20分 授業参観
午後3時10分～午後4時30分 協議

参 加：教育保育職員関係者3名

※他12校授業参観及び協議実施

○教育分野に精通した教育・保育アドバイザーの配置により、学校教育へのアプローチがスムーズにでき、幼小連携の必要性の理解に繋がり、相互参観、協議への参加率が高まった。

○授業参観にとどまらず、協議に参加することで、小学校で目指す姿や、学習や生活とのつながりについて理解し、教育・保育に活かそうとする意識が高まってきている。また、園での育ちや学び、資質・能力等について改めて考えるよい機会となっている。

○相互参観参加により、互いに円滑な接続を目指した教育課程の編成に取り組もうとしている。

○小学校側にとっても「ゼロからのスタートではない」ことを参観や協議によってより理解し、学びのつながりを考えた上で6年間を見通した教育をスタートさせようとする意識が広がってきている。

○授業参観にとどまらず、協議に参加することで、これまで見えなかった園での育ちや学びについて理解し、小学校教育に活かそうとする意識が高まってきている。

●各小学校区での連携活動にばらつきがあり、園と小への連携構築の更なる働きかけが必要。

●連携協議会は組織されていても、連携の内容が交流活動にとどまり、育ちや学びの相互理解が薄い小学校区もあり、入学してから適応に難儀しているところもある。

●日常的に、気軽に情報交換したり共に研修したりできる連携までには至っていない。

◇研究協議会への相互参加によって、接続についての意識が高まり、連携の重要性を実感できるよう、園と小の橋渡しをする。



双方の職員が参加しての協議

□就学期にかかわる教育・保育職員を対象として、幼小接続に向けた研修会を実施

日 時：令和3年2月9日（火）

演 題：「幼児教育と小学校教育の円滑な接続に向けて」

講 師：秋田県教育庁南教育事務所 幼保推進班 主任指導主事 斉藤 文彦 氏

演 題：「スタートカリキュラムの作成について」

秋田県教育庁南教育事務所 仙北出張所 指導主事 物部 長秀 氏

参加者：（予定）50名

※管内でコロナウィルス感染者が確認され、感染拡大防止のため中止の措置。

□教育・保育アドバイザーによる機関誌 幼小連携だより「だいせん元気っ子」発行
以下主のな掲載内容例（8月～）

a. 幼小連携のアンケート結果を掲載

【内容】小学校区での交流活動の具体、相互参観や協議の参加の有無、連携活動年間計画作成の有無、スタートカリキュラム、アプローチカリキュラム作成の有無、連携の課題点等

b. 保育参観、協議に参加した小学校職員の所感、意見、課題等を掲載

【内容】「幼児期の終わりまでに育ってほしい10の姿」「育みたい資質・能力」に基づいて

c. 保育参観、協議に参加した小学校職員の所感、意見及び県指導主事による指導、助言で捉えておきたい文言等を掲載

【内容】5歳児の保育参観、協議

d. 大仙市保育実践力向上研修会の内容や参加した職員の所感、仙北市の公開保育研究協議会の内容紹介、小学校の授業研究会に参加した保育教諭の所感、等を掲載

【内容】本事業の研修会や公開保育研究会、小学校の授業研究会（図工・国語・道徳）

e. 中堅教諭等資質向上研修VIの講義の一部や授業研究会で活用している振り返りカードを紹介、授業研究会参加保育士の所感

【内容】秋大の山名教授の講義抜粋、中仙地区の共通実践事項を踏まえた授業振り返りカードの紹介

○幼小接続のアンケートで小学校の状況把握ができ、教育保育アドバイザーによる情報発信（機関紙）を通じて、各園、各小学校及び当課、教育指導課で共有認識がもてた。

●育ちと学びの相互理解をさらに深めていけるよう、市教育指導課との連携を強化していく。

◇市教育委員会を通じて、校長会、教頭会、小学校訪問等の機会に、本事業についての報告や依頼をしてもらう。

(5) 「県との連携体制の充実」

- ・県主催の連絡協議会等へ参加
- ・事業実施市の研修会、公開研究協議会へ参加。

①仙北市「公開保育研究協議会」

日時：令和2年10月16日（金）午前9時40分～午後4時00分
場所：幼保連携型認定こども園 神代こども園

②横手市：保育実践力向上研修会

日時：令和2年12月21日（月）午後2時00分～午後4時00分
場所：雄物川コミュニティセンター

③仙北市：ファシリテーター研修会

日時：令和3年1月19日（火）午後1時00分～午後4時30分
場所：角館庁舎

- ・県指導主事要請訪問に同行し、教育・保育アドバイザーのスキルを習得する。
- ・市内の教育・保育施設21施設へ同行。

大仙市「幼児教育推進事業」幼小連携だより No.2

だいせん 元気っ子

令和2年9月18日

幼小連携のスタートは「相互理解」から
～ 参観後の協議では「目から鱗が」いっぱい！ ～

前号で紹介しましたアンケートの結果を見て、小学校区での児童と園児との交流活動は何年も前から行われていますし、相互参観も毎年行っている学校がほとんどでした。
しかし、私（佐々木）もかつて小学校の立場で保育参観させていただきましたが、楽しく元気に遊んでいる姿を見て微笑ましく感じたり、来年少ってくる子どもの様子を個別に見たりすることとどまり、遊びの中の「学びや育ち」について深く考えたり促されたりすることがあまりなかったというのが正直なところでした。
そこで、さらに相互理解を深め、今まで以上に幼小の連携が図られるよう、参観後の協議への参加をお勧めしています。4～7月まではコロナの影響で相互参観ができませんでした。つきの木こども園を皮切りに、これまで5園と1小学校に協議に参加していただくことができました。
また、行事等の都合でどうしても参観のみという小学校もあります。
その際、保育参観の視点として、園が日常的に意識している「育みたい資質・能力」と「幼児期の終わりまでに育ってほしい「10の姿」」を参考までに準備いたしました。今後の保育参観の際にも、感想用紙と一緒にお渡しいたしますので宜しくお願いいたします。



～～ 保育参観・協議に参加された先生方の感想をご紹介します。～～
*紙面の都合上、ご感想の中から一部分を抜粋させていただきました。

<p style="font-size: 0.7em; margin: 0;">＜3歳児を参観した1年生の先生より＞</p> <p style="margin: 0;">保育指導案を拝見し、その詳細な計画に驚かされました。年間計画から月、週、本日も事務がに子どもの成長を予想している事に感嘆いたしました。 保育者の目は細やかに子ども達に向けられていると感じたのですが、協議では、まだまだ足りないという発言がありました。どうやら今以上に見取ることができるのか具体的な方法を話し合えたらと思いました。 明日の保育につなげるためにというスタンスで常に研修を行っていることに頭が下がります。そうやって大切に育てられた子ども達ということを忘れず小学校でも力を付けていきたいと思えます。</p>	<p style="font-size: 0.7em; margin: 0;">＜5歳児を参観した校長先生より＞</p> <p style="margin: 0;">目に見えないルールや、刻々と変化するルールを「感じ」「分かり」ガマンしたり張り合ったりして折り合いを付け、そこから新たなアイデアを見つけて、また遊びに夢中になる連続性がすごかったです。広い園庭で、遊んでいない子がいない、集中し、友達と関わり、道具と場を関係付けたことで、友達との関係作りにつながっていました。遊びを通した総合的な指導の中で一体的に育むこと、小学校につながる「知識・技能」「思考力・判断力・表現力」の基礎、「学びに向かう力・人間性」を意識した確かな見取りについても、園小連携の中で一緒に勉強していきたいものです。 何よりも、担任の先生が「楽しいですよ～」と言ってずっと笑っていることが、とってもとっても素敵なことでした！</p>
---	--

相互理解を図る一助に有益情報満載

- 県主催事業、事業実施市の研修等に参加することで、アドバイザーのスキルアップに繋がり、事業実施市の研修会の参加により、事業推進に対する意欲が高められた。
- 県指導主事訪問同行で各園の保育、子どもの理解への気付きができ、共通理解が深まった。
- 近隣市との連携として横手市の研修会に参加し、内容・運営等参考にすることができた。
- 県の連絡協議会の実施が延期や中止となり、教育・保育アドバイザー間で情報交換をもつ機会が少なかった。
- ◇今後、事業実施市間での情報交換の機会を多くもち、保育の捉え方やアドバイスの仕方等について学びたい。

事業実施体制図及び組織図

